

AWARDS JAPAN 2023

Junior Chamber International



CONTENTS

目次

PROGRAM

01 事業褒賞部門 各ブロック協議会推薦事業特別賞

P05

キッズランドとまこまい2023

スポフェスHANAMAKI 2023 ~遊ぼう!学ぼう!やってみよう!~

第44回こども天国~未来につながるワクワク学びの体験広場~

ごちゃまぜ井戸端会議 in NAKATSUGAWA

ごちゃまぜフェスタ in NAKATSUGAWA

町おこし日本in高岡 乾杯リレー

湖北対流都市構想推進事業

LINK UP FESTA 2022 ~みんなでつくろう湖北のドキドキ!~

国際交流推進事業

「WE HAVE A DREAM ~共感で育む、多文化共生社会~」

わくわくワークチャレンジ2023

Beyond the border~広がる交友、深まる教養~

TEENSROCK IN OKINAWA 2023 浦添大会

一般社団法人苫小牧青年会議所

一般社団法人花巻青年会議所

一般社団法人茨城南青年会議所

一般社団法人中津川青年会議所

一般社団法人高岡青年会議所

一般社団法人長浜青年会議所

一般社団法人東広島青年会議所

公益社団法人高松青年会議所

一般社団法人八女青年会議所

公益社団法人浦添青年会議所

PROGRAM

02 事業褒賞部門 最優秀LOM地域社会向上プログラム

P16

新たな魅力発信事業「ランタンフェスinセト」

わが街大作戦~君の一票は誰のタメ?~

長月桜祭り~そうだ 甲突川、行こう。~

一般社団法人瀬戸青年会議所

一般社団法人山口青年会議所

公益社団法人鹿兒島青年会議所

PROGRAM

03 事業褒賞部門 最優秀LOM個人能力開発プログラム

P20

第9回JCカップU-11少年少女サッカー大会茨城大会エリアD予選会
~振り向くな!夢を掴め~

七尾市における持続可能な地域社会の創り手育成(ESD)推進事業

若者によるまちづくり「Sendai Future Generations」

一般社団法人茨城南青年会議所

一般社団法人七尾青年会議所

公益社団法人仙台青年会議所

PROGRAM

04 事業褒賞部門 最優秀LOM拡大開発プログラム

P24

はまファンクラブ

高校生と共に、明るく豊かな持続可能な新庄もがみを

名古屋人間力大賞~名古屋から世界に羽ばたけ~

一般社団法人横浜青年会議所

公益社団法人新庄青年会議所

公益社団法人名古屋青年会議所

PROGRAM

05 事業褒賞部門 最優秀LOM国際協力プログラム

P28

発奮!世界を結ぶ!わんぱくの“わ”!

日比英会話交流会

5月例会メインアワー「ワールドテラス2023」事業

公益社団法人東京青年会議所

一般社団法人南アルプス青年会議所

一般社団法人宮崎青年会議所

PROGRAM

06 最優秀会員

P32

PROGRAM

07 事業褒賞部門 最優秀好循環地域確立プロジェクト賞

P34

名古屋の魅力ポップカルチャー花火フェス
中学生MIRAIサミット～未来へ届けこのメッセージ～
ココロオドル GIFUsummerFES 2023

公益社団法人名古屋青年会議所
一般社団法人日光青年会議所
一般社団法人岐阜青年会議所

PROGRAM

08 事業褒賞部門 最優秀地球環境プロジェクト賞

P38

カーボンニュートラルRPG～主人公はキミだ!
第42回横浜開港祭
55周年記念事業～まちだフードロスゼロ運動～

一般社団法人広島青年会議所
一般社団法人横浜青年会議所
一般社団法人町田青年会議所

PROGRAM

09 事業褒賞部門 最優秀組織改革プロジェクト賞

P42

会員資格制度による組織変革
理念共感推進事業
ノーマライゼーション～一人ひとりの個性が調和する未来を描こう～

公益社団法人相模原青年会議所
一般社団法人神戸青年会議所
一般社団法人山口青年会議所

PROGRAM

10 拡大褒賞部門 優秀拡大LOM賞 20名以下の部

P46

一般社団法人柳井青年会議所
一般社団法人鎌ヶ谷青年会議所
一般社団法人狭山青年会議所

PROGRAM

11 拡大褒賞部門 優秀拡大LOM賞 30名以下の部

P48

一般社団法人伊那青年会議所
福生青年会議所
伊勢原青年会議所

PROGRAM

12 拡大褒賞部門 優秀拡大LOM賞 50名以下の部

P50

公益社団法人泉佐野青年会議所
一般社団法人茨木青年会議所
公益社団法人松戸青年会議所

PROGRAM

13 拡大褒賞部門 優秀拡大LOM賞 75名以下の部

P52

一般社団法人尼崎青年会議所
公益社団法人新居浜青年会議所
一般社団法人那覇青年会議所

PROGRAM

14 拡大褒賞部門 優秀拡大LOM賞 110名以下の部

P54

一般社団法人長崎青年会議所
一般社団法人花巻青年会議所
一般社団法人泉青年会議所

PROGRAM

15 拡大褒賞部門 優秀拡大LOM賞 111名以上の部

P56

一般社団法人浜松青年会議所
公益社団法人金沢青年会議所
公益社団法人相模原青年会議所

PROGRAM

16 最優秀拡大LOM賞グランプリ

P58

PROGRAM

17 優秀賞 準グランプリ

P60

PROGRAM

18 最優秀賞 グランプリ

P62

PROGRAM

19 アンケート

P64

AWARDS JAPAN 2023

Junior Chamber International

事業褒賞部門

各ブロック協議会推薦事業特別賞

キッズランドとまこまい2023

一般社団法人苫小牧青年会議所

～事業に懸ける想い～

LOMにとって久しぶりの大型事業であり、関係者や参加者も多く、その分大変苦労する事業でした。他のLOMと同じく、歴の浅いメンバーが増えているなか、大型事業を実施し、関係者や参加者からまた実施してほしいとの声をいただくなかで、メンバーも自分たちがまちづくりを実施しているという実感を得ることができ、他の活動に対する意欲も向上しました。また、大規模事業には、メンバーの人数が必要であるとの意識も芽生え、拡大や既存メンバーへの動員にも力が入るようになりました。現在は、地区大会誘致の話まで出るようになってきました。総じて、本事業を経て、LOMの活力が増えています。



事業背景

日本では、諸外国に比べて自己肯定感が低く、将来への夢や目標を持っていない子供が多い現状があり、特に、小学生から中学生になるタイミングで、自己肯定感の低下や将来への夢や目標を持っていない割合が増加しています。子供たちは、実際の体験から夢や目標を持つ契機となることも多いにもかかわらず、子供たちが実際に仕事を見たり体験したりする機会が多くありません。社会の宝である子供たちが将来への夢や目標を持つ契機となる機会が必要です。また、苫小牧市においても、年々、少子化が進行しており、少子化の原因である出生率低下をもたらしている要因として、子育てに対する金銭的な不安や育児環境の不安から理想とする子ども数をもつことに積極的になれないという子育て世代の意識の問題があります。このような子育てに対する不安は、核家族化や個人主義などの社会構造や価値観の変化と子育てが家庭の役割であるという社会環境のギャップに起因します。行政、企業、地域社会が協力して子育てを応援し、まちの未来を担う子供をまち全体で育ていく社会環境が必要です。



事業目的

1. 苫小牧市の子供たちが苫小牧にある仕事を知り、仕事の楽しさや大変さに気づくこと
2. 苫小牧市の大人が子供たちの夢や目標を応援する意識を醸成すること
3. 行政、企業、苫小牧市民がまち全体で子供を育てていくことの大切さに気づくこと



苫小牧日高 2023年(令和5年)9月4日(月曜日)掲載

事業概要

1. 職業体験事業(キッズランドとまこまい2023)
 - ・市内企業27社の協賛による小学校5、6年生を対象とした職業体験事業です。
 - ・参加した小学生には職業体験ごとにイベント通貨を発行し、事業内での買い物体験ができるように、仕事とお金の経済を学べる場として構築しました。
 - ・保護者は子供たちと離れ、体験はすべて子供の自主性に任せて行うようにしました。
 - ・保護者は待っている間、飲食ブースの利用(子供はイベント通貨で買い物)や同会場にて西野高廣氏作「チェックタック〜約束の時計台〜」の光る絵本展を開催することで、保護者も楽しめる事業として構築しました。
2. 苫小牧市民及び周辺自治体住民を対象とした子供子育てをテーマとしたフォーラム・苫小牧市長岩倉博文氏、東京大学大学院教授山口慎太郎氏、西村博之(ひろゆき)氏、(一社)苫小牧青年会議所理事長長尾川健吾氏による対談を行いました。
3. 苫小牧青年会議所が行った1000人アンケート、3000人署名活動の結果を踏まえた提言書の提出しました。



運動効果

職業体験事業については、新型コロナウイルスの蔓延もあり、体験型イベントが減っていたなかでの事業でもあったため、参加した子供たち、保護者からは、次年度以降も実施してほしいとの声が上がっている。市でも数年前まで行っていた職業体験事業を見直し、本事業も参考にして、小学校3、4年生を対象とした職業体験事業を実施することになった。市の職業体験事業には、苫小牧青年会議所も後援として参加し、ノウハウや当日運営の協力を行いました。フォーラムについては、市長に対し、東京大学大学院教授山口氏や西村博之(ひろゆき)氏とともに、子育て政策の重要性を訴えることができた。また苫小牧青年会議所において作成した子育て政策についての提言書を受け取ってもらい、市長から直接子育て政策に力を入れていく旨の言葉をいただいたことから、市の子育て政策に一石を投じることができたと考えます。2023年10月23日の苫小牧市長記者会見において、提言の内容の一つである子供医療費助成制度の所得制限撤廃、高校生までの期間延長がなされることが示されました(参考資料参照)。我々の運動が一つの成果に結びついたものと考えます。

事業褒賞部門 各ブロック協議会推薦事業特別賞

スポフェスHANAMAKI 2023

～遊ぼう!学ぼう!やってみよう!～

一般社団法人花巻青年会議所

～事業に懸ける想い～

この事業では、市内唯一の大学である富士大学に共催いただき、開催することができたわけですが、事後のヒアリングにおいてもスポーツを地域で盛り上げていく必要があるという共通認識を確認することができ、今後は富士大学またはその学生主体の事業もできないかという言葉もいただきました。また、市や花巻東高校(柱谷さんへの協力)など多くのステークホルダーもヒアリングから、この事業を通じてスポーツを介した地域の町おこし・活性化の可能性を感じていただけたことから、形は変化しても継続して運動が進んでいくと考えています。



事業背景

近年、部活動の時間制限や地域移行、塾や習い事にかかる時間の増加などの子供たちのスポーツに打ち込める機会の減少は顕著であり、そのことが子供の基礎体力やコミュニケーション能力の低下等にも表れており、この花巻においても例外ではない。今一度、身体能力の向上だけでなく、人格形成やコミュニケーション能力の向上といった人生をより豊かにすることができる「スポーツの価値」を個人が体験を通じて再認識してもらいたい。また、スポーツは世界共通の大切な文化であり、明るく活力に満ちた社会の形成や、地域の活性化においても重要である。サッカーやラグビーなどのワールドカップで日本中が一つになれる魅力、スポーツには「すること」だけでなく、「見る」、「支える」という楽しみ方もあります。この「する・見る・支える」がたくさん詰まったスポーツの魅力を体験や学びを通じて実感してもらおうと事業を実施いたしました。



事業目的

対外目的
「する・見る・支える」の体験・学びを通じて「スポーツの価値や魅力」を感じてもらい生活の中にスポーツを今よりも取り入れてもらうことを目的としました。また、地域で行われているスポーツ大会や地域のイベントに応援や支援も含めた積極的に参加する人材となっていたことを目的としました。

対内・組織目的
大学や市・体育協会、薬剤師会等様々なステークホルダーとの協働による事業を通じ関係強化を目的としました。会員には、ステークホルダーとの協働を通じた人脈や知識の広がり・向上、各ブースに参加することによる自分自身のスポーツに対する意識変革を目的としました。



事業概要

総合的な魅力を感じる場として、柱谷哲二さん、バンサー尾形さんによる「スポーツの魅力」に関するクロストークを実施。スポーツが与える好影響や自身の支えになったこと、サポートの大切さなどをわかりやすく伝えてもらいました。

体験ブースでは、様々なスポーツを大学生主体(会員がサポート)という形で多くの子供から大人まで岩手ビッグブルズの選手やバンサー尾形さん参戦のものと体験していただきました。

学びブースでは、栄養、メンタル、テーピングなど少人数制で勉強する場を設け、実践できること、支えられることを学んでいただきました。



運動効果

様々なステークホルダーへの動機づけや、地域全体でスポーツに取り組む大切さについて影響を与えられた。様々な取材を受けられたことはもちろん、具体的に富士大学は後日学園祭の最中にスポーツにおける講演を実施したことや市とも今後市内でできることの検討なども話し合いが持たれていることからこのように考えています。また、公共交通機関では少し参加しづらい立地にもかかわらず約800名に来場いただきました。ポスターやチラシの配布によって興味をもっていた方が計画的に来てくれたものと考えます。またその来場者からのアンケートの結果を見ても地域の方へスポーツの価値の向上について影響を与えることができたと考えます。

一般社団法人花巻青年会議所

住所 岩手県花巻市花城町10-27

事業褒賞部門 各ブロック協議会推薦事業特別賞

第44回こども天国

～未来につながるワクワク学びの体験広場～

一般社団法人茨城南青年会議所

～事業に懸ける思い～

茨城南JCの44回開催している継続事業となりますが、昨年2年ぶりにコロナ禍により中止しておりましたこども天国を開催いたしました、開催した結果来年も是非やって欲しいという地域の声を大きくいただきましたので、今年度も開催をする運びといたしました。運営協議会として地域の団体・行政に参加いただいた全体会議を度行い、担当する委員会を中心として各諸団体と別途打ち合わせを重ねました。また、事業日の前日にはLOMのメンバーを中心として会場の設営・警備を行い当日はメンバー各々が担当していただいている各ブースに分かれて、アカデミーメンバーにブースのリーダーを任せて当日の運営を行いました。



事業背景

近年の日本国内では都市化、核家族化、少子化に加え、AIやICTの発達に伴い屋内での遊びに移行しているため、屋外での原体験による成長の機会が減っている現状があります。子供が成長する過程の中では五感で直接感じる体験は必要不可欠であり、その経験の機会を我々青年経済人が率先して多様性あふれる仲間と地域の人々とともに提供し、子供たちが未来をみつめ夢や希望を見出せる地域の育成環境を構築していくことが必要です。



事業目的

子供たちが普段の生活ではあまり体験できない、五感を刺激するような原体験をもらうことにより将来の糧となるような個の成長を促すことを目的とします。そして地域の高校生がボランティアとしてブースの事前の事業構築や当日の運営に参加することで成長の機会を提供することを目的とします。また茨城南JCの会員全員が担当するブースを持ちそして各委員会より担当リーダーとしてアカデミーメンバーが主導して事業を構築していくことで、LOMメンバー一人ひとりが共感を得て能動的かつ自主性をもったJC活動に参画するようになり、事業の価値と人のつながりの価値を再認識、再確立することを目的とします。



事業概要

子供たちに普段の生活ではあまり体験できない、五感を刺激するような原体験をしてもらえるようなブース設営をします。

ブース内容

①ドッジボールブース②職業体験ブース(重機操縦・清掃体験等)③SDGs障害物レースブース(藤代高校が設営したブース)④宇宙体験ブース(フィルムロケット作成・フワフワドームスペースジャンプブース)⑤クエストラリー⑥メインステージ⑦ピニャータブース⑧ナーフサバゲー(エリアDアカデミーブース)⑨防災グッズ作りブース(守谷高校が設営したブース)

当事業のテーマとして「1日中子供達を遊び尽くさせる」がございませう。そんな中、本年度は夢を育むために「宇宙」をコンセプトにしたブースも設営しました。来場者は20,000名を超える方にお越しいただきました。



運動効果

継続事業ではあるが、毎年地域で活動している団体や行政を巻き込んでの事業であるため、青年会議所の会員だけではなく地域で住み暮らす人が一緒に子どもたちのための事業に参加するだけでなく運営をすることで、地域の団体がさらに地域にコミットした活動することができるようになっている。また、普段は別の目的を持って活動をしている行政や地域の団体同士が同じ目標を持った活動をする事で、行政・団体同士のコミュニケーションにつながり平素の活動をより円滑にすることができるようになっていく。

一般社団法人茨城南青年会議所

住所 茨城県取手市取手2-14-23

事業褒賞部門 各ブロック協議会推薦事業特別賞

ごちゃまぜ井戸端会議 in NAKATSUGAWA ごちゃまぜフェスタ in NAKATSUGAWA

一般社団法人中津川青年会議所

～事業に懸ける想い～

メンバーアンケートから、最終日の事業に出席した全員が、誰もが活躍できる中津川市になるための仕組みを理解したと答えており、全体を通した感想でも、今回の取り組みを継続していくことが必要との意見も多く、中津川市の課題解決のために行動できる人財になっていただけたと考えます。事業参加者が自主的に行動し始めたからこそ、関係各所との懸け橋として共生社会の実現を目指していきます。

【事業内容】

<トークセッション>

サンメッセ総合研究所 田中 俊彦様
(一社)中津川青年会議所 理事長 塚 厚美
ファンデーター (一社)中津川青年会議所 専務理事 可児将太郎

<テーマ>

「ダイバーシティ～多様性を育むまちづくり～」



ごちゃまぜフェスタ in NAKATSUGAWA
2023年 7月30日(日) 8時00分～16時35分

事業背景

現在、中津川市では地域共生社会の実現に向け、まちづくりが進められていますが、私たちの地域・家庭・職場といった人々の様々な生活の場面において支え合いが失われ、人とのつながりが少なくなり孤立を感じる人が増えていると考えます。だからこそ、私たちや中津川に住まう人たちが互いを尊重し、共に支え合うことが重要です。そのためには、地域共生社会を理解し、地域課題を解決する方法を考えることで、我々一人ひとりが主体的に社会的処方役を担い行動していくことが重要です。そうすることで、誰もが自然と活躍できる中津川へとつながっていくと考えます。

【事業内容】

<トークセッション>

自由民主党 参議院議員 今井 絵理子様
車いすインフルエンサー 中嶋 涼子様
Office明星 塚本 明星 様

(一社)中津川青年会議所 理事長 塚 厚美

<テーマ>

「心のバリアをなくすまちづくり」



ごちゃまぜフェスタ in NAKATSUGAWA
2023年 7月30日(日) 8時00分～16時35分

事業目的

対内

・中津川市の課題解決のために行動できる人財になっていただく

対外

・中津川市に住まう人を支えられる人財になっていただく



事業概要

全5回の事業として、4月から5月の事業で青年会議所メンバー及び事業参加者向けに講演会とワークショップを行う。事前に共生社会創造委員会で、「障がい」「LGBTQ」「高齢者福祉」「多文化共生」「障がい児福祉」「交通(障がい)」「交通(高齢者)」「移住者」「子供」のテーマに、青年会議所メンバーと事業参加者を9つのグループに分ける。ハンデや属性の有無に関係ない当たり前に誰もがいられる小さなコミュニティを創り出すことを目的とした「ごちゃまぜフェスタ in NAKATSUGAWA」を開催し、中津川市に住まう人たちに来場していただく。青年会議所メンバーや事業参加者には、ブースやトークセッション、体験企画などを運営していただく。また、市民意識調査アンケートを取ることで、市民の生の声を集め、地域課題やフェスタでの経験をもとに地域課題をまとめ、ごちゃまぜ井戸端会議 in NAKATSUGAWA DAY4で解決策を話し合い、中心市街地ビジョン策定会議が立案した、中心市街地まちづくりビジョンのアクションプランに、ごちゃまぜ井戸端会議 in NAKATSUGAWA DAY4で考え出した解決策を盛り込んでいただくため、提案書として取り纏め、後日、中心市街地ビジョン策定会議に提出する。



運動効果

ごちゃまぜフェスタで吸い上げた、市民意識調査アンケートから地域課題の解決策を立案し、段理事長より中心市街地アクションプラン策定会議に提出して頂きました。会議終了後、中津川市商業振興課の方から、今回の事業内容や解決策について、個別で説明していただいたと打診があり、行政でも地域共生社会の観点を取り入れることの大切さを理解して頂けたことは、地域共生社会の実現に向けた第一歩になったと考えます。また、事業後に、事業参加者が自主的に動き10月28日にごちゃまぜBBQを行います。青年会議所メンバーが声掛けをしたものではなく、事業参加者が続けていきたいから協力してほしいといった意向があり開催となります。中心市街地アクションプラン策定会議でも、今回の事業の内容を取り入れる動きがあります。

一般社団法人中津川青年会議所

住所 岐阜県中津川市かやの木町1-20 商工会議所内

町おこし日本in高岡 乾杯リレー

一般社団法人高岡青年会議所

～事業に懸ける想い～

おそらく、これだけ特殊性のある事業に関わる機会は今後ないであろうで、単純に運営方法について学ぶだけでなく、主催委員会の姿勢、他委員会メンバーとしての姿勢、青年会議所の委員会構成、他者に動いてもらう方法や心を掴む方法などについて自分なりに考える良い機会となった。まちづくり委員会の皆様の頑張りに触発されて参加することとした。参加しなければ得られない機会(今回は、上記などについて考える機会)があるということがわかったことが一番の収穫であった。自分が向いている方法で、企画委員会の力になれたと思えた。また、夏の暑い日に、長い時間待たされた高岡市の住民の方が、青年会議所のメンバーがひたむきに事業に取り組み姿勢に、「がんばっているな」と感じて、応援する姿勢・忍耐と笑顔の様子を示して下さったから。けて空論ではわからない、当日事業に参加することでしか得られない経験を積むことで、自身が役職を受けた時だけでなく、一市民として高岡にどのように貢献できるかを考える機会となり、今後主体的に行動していくことにつながっていくと考えています。



事業背景

高岡は歴史都市ですが、地域コミュニティの衰退により市民の大半の郷土愛が弱くなっている現状があります。方向性を同じとする、コミュニティ同士を繋ぎ、協働していかねばなりません。一人でも多くの市民が地域と繋がって「郷土愛」がより強固になり、人で溢れる高岡を実現することが必要不可欠です。



事業目的

【対内】高岡のまち創りに関わる主体的なメンバーを増やすことを目的とします。

【対外】自分の住むまちに高い関心を持つ市民を増やすことを目的とします。



事業概要

●事業の目的に共感者が生まれ、新たな実行委員会が立ち上がる。
【事業名】「町おこし日本in高岡 乾杯リレー」
9月13日の高岡の開町日を見えていただくために、ギネス記録に挑戦する。その過程で協働団体と一緒に取り組むことで、協働団体の存在や価値を知っていただき、賑わいだけでなく、市民の方々にイベントを回っていただくことで、高岡の真の価値を知っていただく機会の創出といたしました。



運動効果

アンケートの記載が多かったのが、もう一度ギネス記録に挑戦したいという意見が多く、多くの市民の皆様と事業を共に行うことで、一体感が創出でき市民一体となって高岡を盛り上げていけたのはとても良かったです。これらアンケート結果を持って高岡市に提言することで、高岡の開町日に合わせて行政と民間企業を巻き込んで継続事業になるイベント開催できるように提言していきます。

歴史都市高岡をまずは市民が知ることで、将来高岡から離れることになったとしても、故郷を想い帰省したり、故郷のことを誰かに話したり、故郷を大切に作る郷土愛の醸成に繋がる機会になったと考えています。

事業褒賞部門 各ブロック協議会推薦事業特別賞

湖北対流都市構想推進事業 LINK UP FESTA 2022

～みんなでつくろう湖北のドキドキ!～

一般社団法人長浜青年会議所

～事業に懸ける想い～

コロナ禍のため2020年以降、本事業と同等規模の事業をする機会がありませんでした。3年ぶりとなる長浜青年会議所最大規模の事業で6000名の来場者を集めたことはメンバーにとって確かな自信と組織に所属する誇りを高めることに繋がりました。また、事業の過程で多くのまちづくりプレイヤーの協力を得られたことも、地域のリーダーとしての自覚を強める一助になりました。この事業を通して得た様々な地域の皆様や高校生・大学生とのつながりは、長浜青年会議所の様々な運動をさらに力強く展開する上での大きな力となっています。



事業背景

近年、湖北地域では都市部への人材流出が進み地域の活力が低下しています。今後、活気を取り戻すためには、湖北のシンボルとなる新たな賑わいを創出することで、地域外からの注目を集めることが必要と考えます。そこで、私達は若者の価値観や斬新なアイデアに着目し、湖北に住む若い世代をまちづくりの担い手として成長させるために「湖北プロデュースカレッジ」という仕組みの構築に向けた運動を2020年からの構想の中で展開しています。この仕組みを通して、若者とまちづくりプレイヤーがともにまちづくりに参画していくことで他地域にはない魅力を多方面に発信し、持続的なまちの活性につなげることを目指しています。



事業目的

新型コロナウイルスの影響で2年間事業ができなかったため、実質構想の1年目となった2022年でしたので、まずは一般社団法人長浜青年会議所が主体となり行政や各地のまちづくりプレイヤーをつなぎ合わせ、ともに活動地域である湖北(滋賀県長浜市米原市)のシンボルとなる新たな賑わいを作り上げること、その過程で高校生を関わらせてまちづくりに興味を持ってもらうことで、湖北プロデュースカレッジの土台を作ることとを目的としました。



事業概要

長浜市では木之本町にある滋賀県最古の図書館の江北図書館を中心として北国街道の昔ながらの町並みを活かし、お化け屋敷をメインプログラムに据えた事業を開催しました。長浜と米原の高校生が企画からキャストまで参画し、木之本の趣ある町並みを新たな切り口と魅せ方で表現しました。米原市では自然豊かな伊吹山の麓の伊吹薬草の里で事業を行いました。古くから地域で親しまれてきた盆踊りの文化を活かし、東京オリンピック2020の閉幕式でも振り付けされた鳳蝶美成(あげはびじょう)氏をお招きし監修頂くことでBON踊りと銘打った古典から現代まで幅広いジャンルの曲で踊るといふ今までの湖北にない賑わいを表現しました。



運動効果

行政からは、まちを盛り上げる事業として大好評をいただきました。特に長浜市では2023年に向える羽柴秀吉が長浜にまちを開いて450年にあたる記念年のメイン事業の一つとして追加の補助金も含め、大々的に支援をして頂けることとなりました。参画者を輩出して頂いた学校からは、事業を通して生徒・学生の成長を著しく感じるとの声もいただき、一部の高校ではまちづくりを授業のカリキュラムに入れたとの意見も頂きました。それぞれ開催地域からは、地域資産を上手く活用してくれたと賛辞が届き、翌年以降も引き続き事業を行って欲しいとの要望もあります。多方面からの反響は、本事業が地域社会に与えたの貢献度の高さの表れと考えます。

一般社団法人長浜青年会議所

住所 滋賀県長浜市高田町12-34

事業褒賞部門 各ブロック協議会推薦事業特別賞

国際交流推進事業

「WE HAVE A DREAM ~共感で育む、多文化共生社会~」

一般社団法人東広島青年会議所

～事業に懸ける思い～

東広島市における外国人人口の割合は増加傾向にあり、今や中国地方でも 2 番目となる外国人比率を誇るまちとしての側面をもつようになりました。雇用も増えたことで外国人市民は生活に根付き、もはやなくてはならない存在として私たちと同じまちに暮らしています。第五次東広島総合計画においても多文化共生社会の実現を方針として掲げているなか、日本人市民と外国人市民の融和を進めていかなば多文化共生社会の実現はあり得ないと考えに至りました。誰もが参加しやすい標語の考案という機会を通して、国際交流について色々な方に考えを巡らせていただきます。国際交流、ひいては多文化共生社会というまちの目指すべき未来の形についてイメージし、それを言語化していただくことで、市民一人ひとりが国際に対して考えをもっていただく場を提供したいと考えました。



事業背景

社会のグローバル化が進み、国際都市としても発展を続ける東広島市ですが、市民間における国際交流の興味と関心は未だ高いとは言えず、東広島市の掲げる相互理解のもとでの多文化共生社会の実現に対する意識が低い現状があります。



事業目的

【対外】
自身の生まれ育った環境や文化をもとに夢と未来を思い描き、自己表現をすることで、自分の可能性に挑戦し続け、夢をもち続けられる人材を育成することを目的とします。また、次世代を担う様々な国籍の若者が表現する夢や未来に触れることで、相互理解を促進し、多文化共生社会の実現に向けて 来場者の意識を変革することを目的とします。

【対内】
日本とは異なる国や文化をもつ市民が自己表現をする機会を提供することで、国際への参画意識を醸成します。また、夢に向かって努力する様々な国籍の若者の意識に触れることで、常に高い目標や理想の夢を持ち続け、必ず達成するという意識をもった人材となることを目的とします。



事業概要

- (1) 青少年夢発信(発進)プログラムの開催(様々な国籍の高校生が自分の夢を発表)
- (2) 外国人の夢を集めた特設 Instagram アカウントの開設
- (3) 国際交流推進標語の募集(東広島市民から標語を募集、表彰)
- (4) 多文化共生啓発社会ポスターの募集(学生による啓発ポスターを募集、表彰)

次世代を担う様々な国籍の学生達が自身の夢や未来について見つめ直し、それを青少年夢発信(発進)プログラム等で自由に自己表現をします。来場者には、様々な国の学生達の希望に満ちた想いに触れることで、人の気持ちに人種も国籍も関係ないことを感じていただき、相互理解の精神を養っていただきます。そして、目を輝かせながら夢を語る学生達を見て、自身の夢を見つめ直し、夢に向かってひたむきに行動を起こし続けられるよう自己の意識を変革していただきます。



運動効果

事業構築段階において東広島市役所市民生活課や東広島市内各高等学校に多大なるご協力をいただき、各生徒への事業概要説明の実施など、良好な関係を構築することができました。

一般社団法人東広島青年会議所

住所 東広島市西条昭和町17番23号 田中ビル内

わくわくワークチャレンジ2023

公益社団法人高松青年会議所

～事業に懸ける思い～

1. 目標である来場者数の90%を達成し、成功と言えます。3,303人の来場者が集まりました。
2. 想定外の結果としては、高校生サポーターの応募が目標に達しなかったことが挙げられます。
3. 来場者数の確認は、事業開催日に実際の来場者数を計測し、高校生サポーターの応募数は応募フォームや申込書の受付を通じて確認されました。
4. 目標来場者数の90%達成は素晴らしい結果ですが、高校生サポーター数に達していないことから、高校生に対する直接的な説明会を導入する必要があります。また、対内の前日設営と当日参加率の低下が問題とされ、積極的な参加奨励策の導入が提案されています。



事業背景

地域の子供たちの自己肯定感の低下による非認知能力の成長が危ぶまれており、それは子供が将来を夢見ることが妨げ、ひいては地域の未来を担う人材の成長の機会を失っています。そこで高松JCが今までに築き上げた様々なパートナーシップを活かし、子供たちの教育に関連のある公共機関・民間企業とともに、学校では経験できない機会の提供を行うことで、子供たちに達成感や満足感を感じてもらい将来に希望を抱いてもらう必要があります。



事業目的

子供たちに将来の職業選択や社会参加の一助となる貴重な経験と知識を提供することを目的としています。異なる職業についての基本的な理解や、職業に必要なスキルと資質を知識として学び与えることができ、職業体験ブースで模擬プレゼンテーションや役割演技を実際に体験できます。その効果として、職業選択への影響だけでなく、自己理解の向上や職業が社会に与える影響や貢献について理解を深め、将来の市民としての社会への参加意識が高まります。



事業概要

事業開催日: 2023年8月27日(日) 8:30~17:00
会場名: サンメッセ香川
住所: 高松市林町2217-1
会場内の区域: 小展示場、中会議室、小会議室1~3、特別会議室、第2屋外展示場
交通アクセス: 駐車場700台+臨時駐車場1,000台、駐輪場、路線バス、電車(琴電高松築港駅~伏石駅)
参加動員数の結果報告・参加推進方法の検証・広報戦略の結果報告:
目標来場者数: 3,676人
当日来場者数: 約3,303人(対目標: 90%)
高校生お手伝い人数: 51人(最大80人想定)
対外広報戦略: HP、SNS、チラシ、ポスター、動画などで広報活動
対内参加推進: 青年会議所メンバーの内外イベントへの参加、PR、説明会



運動効果

まず、地域経済への貢献が挙げられます。多くの来場者が地域のホテル、レストラン、交通機関を利用し、地域のビジネスに新たな収益をもたらしました。さらに、地域の名所である「サンメッセ香川」の活用が促進され、施設の知名度向上に寄与しました。また、事業に参加した地元の青年会議所メンバーは、イベント運営やプロジェクトマネジメントのスキルを向上させ、リーダーシップを養いました。これは地域の若手リーダーの育成に寄与し、将来のコミュニティリーダーシップにプラスの影響を及ぼします。最重要なのは、地域社会にとって新たな交流の場を提供し、地元住民や訪問者が共に楽しむ機会を生み出したことです。地域の結束感を高め、コミュニティの一体感を強化しました。総合的に、この事業は地域社会に多くのプラスの影響をもたらし、地域全体に良い変化をもたらしました。

事業褒賞部門 各ブロック協議会推薦事業特別賞

Beyond the border

～広がる交友、深まる教養～

一般社団法人八女青年会議所

～事業に懸ける想い～

国際交流事業は八女JCとしては、10数年ぶりの事業となっております。地域のことを考えるために、外国の文化や慣習にメンバーが触れることで、これまでの事業構築の考えに新たな手法を取り入れ事業の幅が広がっていくと考えます。また、立命館アジア太平洋大学と連携することで、地域の高校をはじめとする各学校からの信頼もこれまで以上に厚くなり、青年会議所運動の理解が増し今後の学生向けの事業への参加者を募りやすくなると感じました。



事業背景

近年、学業や日本の技術習得のために来日し、日本に住み暮らす外国人は多く見受けられる。これからの社会において外国人との交流は必要不可欠になり、より広い視野でのコミュニケーションが求められる機会も増え、どのような状況にも対応できる知識や知恵を会得する体験が求められる。



事業目的

【対内】
海外の文化に触れることで八女地域に必要なものや課題解決につながることを発見する。また、事業を通して外国人とコミュニケーションを取り、グローバルな視点を持つことで、国際交流において八女JCとしての役割を認識し、今後のJC運動につなげる。

【対外】
外国人とのコミュニケーションを体験することで、外国の文化や慣習に興味を持ってもらい偏見のない世界の実現を目指す。また、日本人同士では気づくことのできない新しい価値の発見や国際的な人財の育成に寄与し多様性を尊重する意識を育むことで、八女地域の発展を考える契機とする。



事業概要

本事業では、日本と他国との文化や慣習、考え方の違いを知るために、国際交流の意義を感じることで、それぞれの国の魅力、課題を認識し、相互理解の精神を育むことのできる時代に即した事業を構築します。そして、日本人としての誇りをもち今後の国や地域の発展につなげるために、これまでに無かった発想や課題解決に向けて交流できる機会を創り、報道による偏見を無くして相手を尊重することの大切さを知ることで、外国人とのコミュニケーションを取り相互の友情を育みます。さらに、将来海外で活躍できる人財が八女地域から生まれる機会を創出するために、国際交流事業を実施することで、外国への関心を深めます。



運動効果

高校生に留学生と交流してもらったことによって、現在の八女地域の抱えている課題について新しい視点からの解決策を考えるようになり将来的に地域の活性化につながると思います。また、八女地域だけでは気づくことのできない新しい価値の発見につながり、それを活かすことで地域が発展していくと確信しています。そして、八女地域には大学が存在しないので、留学生が八女地域に興味を持っていたことで、口コミで情報が広がり多くの外国人が八女地域を訪れ地域への好影響へとつながると考えます。さらに、八女地域の高校の先生方からも生徒のためになる事業でしたので、今後も継続していただけたらたいへんありがたいとお言葉もいただきました。このことから、八女地域の高校への好影響を与えることができたと感じました。

一般社団法人八女青年会議所

住所 福岡県八女市本村清水町425-22-2

事業褒賞部門 各ブロック協議会推薦事業特別賞

TEENS ROCK IN OKINAWA 2023 浦添大会

公益社団法人浦添青年会議所

～事業に懸ける想い～

本大会に参加した高校生バンドの多くが、第1回目の大会後すぐにバンドを結成したチームとオリジナル曲づくりに力を入れて練習していました。コロナ禍があけたことによって、彼らは自分たちで作詞・作曲した音楽で挑戦する機会、プロへの階段を登る機会、青春の1ページを飾る機会とそれぞれの目的で参加し、人前で演奏できることに楽しんでいるのが印象的でした。音楽の文化・芸術を盛んにすることで、より行政・企業・地域が連携、そして私たち団体の発展・発信に寄与出来ると考えます。



事業背景

インターネットの進展とSNSの普及、コロナ禍の影響によってリアルな人間関係や地域社会との交流が更に希薄化しています。未来を担う若者が地域社会と共通の目標に向けて交流や協働をし、他者を思いやる精神性、協調性、連帯感を体験できる機会を生み出すことが求められます。



事業目的

若者が音楽を通じて仲間意識や責任感、リーダーシップ、地域社会とつながりを育む機会を醸成し、未来を担う次世代のリーダーを輩出することを目的とします。また、「TEENS ROCK IN OKINAWA」を年に一度行われる音楽フェスとして確立し、夢に向かって輝いている高校生バンドが行政や地域企業・団体と関わる機会を与えられるだけでなく、自らが主体的に当事業に関わり、連携を深めることで更なる地域活性化の手段とすることを目指します。



事業概要

本事業は、今年で2回目を迎えます。未来を担う若者たちが音楽を通じて地域とともに事業を行うことで他者を思いやる精神性、優しさ、協調性、連帯感を備えた時代を担うリーダー育成の場を提供します。また、グランプリのバンド1組にはひたちなかJCI主催の全国大会への出場権・渡航費の一部補助と、てだこ祭りへの出場など、音楽に対する音楽の支援を実施いたします。さらに、協力パートナーの若杉福祉会と運営することで、県内の高校生へ浦添青年会議所の運動の周知を広めながら、多様な音楽と地域活性化を目指します。



運動効果

高校生バンドの魅力と音楽の文化・芸術を浦添市、メディアが積極的に協力的取り組み始めることに貢献出来ました。また、本大会に助成・協賛をした企業が視察にきていただけたことで、浦添青年会議所の運動を周知出来たと考えます。

公益社団法人浦添青年会議所

住所 沖縄県浦添市仲間1-10-7

AWARDS JAPAN 2023

Junior Chamber International

事業褒賞部門

最優秀LOM地域社会向上プログラム

新たな魅力発信事業

「ランタンフェスinセト」

一般社団法人瀬戸青年会議所

～事業に懸ける思い～

2023年度の大橋理事長が掲げたスローガン「つながりを大切に まちづくりの輪をひろげよう」は、2023年度の期初会員数11名である本LOMでもまちへインパクトのある運動を展開しようという決意の表れでもありました。そのため、大学生との連携による事業構築、クラウドファンディングの実施などによって我々の考える理念に共感していただくことで関わる方をひとりでも多くするための工夫をしました。なお、本取り組みには公益社団法人日本青年会議所2023年度LOM支援委員会の平野副委員長をはじめとするメンバーの皆様から多大なるお力添えをいただいたことを添えさせていただきます。



事業背景

瀬戸青年会議所の本拠を置く愛知県瀬戸市は、2023年10月には市政施行94周年を迎えており、この間、まちを支えてきたのは1000年余りの歴史をもつ瀬戸の「やきもの」、そして「やきもの」の製造に欠かせない燃料を生み出す雄大な「自然」であるといえます。1985年のプラザ合意以降の急激な円高により、まちの地域産業の根幹であった「やきもの」の陶磁器産業は大きなダメージを受け、まちの活力が低下した時期がありました。しかし、その後、瀬戸には「やきもの」の新たな担い手も集まってきており。今もなお「やきもの」と「自然」は瀬戸のまちの根源的な資源かつまちの魅力であることは間違いありません。コロナ禍が落ち着いた今こそ、多くの関わる人々でこれらの魅力を再認識し、発信することで瀬戸市版地方創生の礎をつくる必要があります。



事業目的

【対内対象者】
（瀬戸JCメンバー）人々がせとのまちが持つ魅力を知り、魅力の発信を通じてまちに主体的に関わる機会をつくることを目的として実施します。
【対外対象者】
（一般参加者）
瀬戸が持つ「やきもの」「自然」といった魅力を体験し認識あるいは再認識していただきSNS等による主体的な発信をしていただきます。
（ボランティア参加者）
瀬戸JCメンバーと一緒に企画運営から主体的に関わることで、より深いまちの魅力に気づいていただき瀬戸JCの取組へ継続的に関わってもらえるような瀬戸ファンになっていただきます。



事業概要

一般参加者を対象に「ランタンフェスinセト」を開催しました。10月14日（土）の本開催を前に8月22日から9月22日までの一ヶ月間で当日の参加チケットをリターンに設定したクラウドファンディングを実施、また、PRを含め瀬戸市最大の40万人が参加するお祭り「せとの祭」においてPRやきものワークショップを実施しました。なお、本開催前の半年前から南山大学の学生団体「NanzanAID」と協働して企画を練り、準備をしていきました。当日はNanzanAIDだけでなく、名古屋柳城女子大学の有志メンバー、市民ボランティア、市役所関係者ボランティア、そして日本青年会議所LOM支援委員会メンバーの力を借り、①受付を行い、②瀬戸の魅力の語った中心市街地を巡っていただき、③会場到着後は企画運営に携わった大学生による瀬戸の魅力語るトークセッション、④参加者全員でLEDランタンを打ち上げるところというプログラムで臨みました。なお、当日は中心市街地の商店街にもご協力いただきNanzanAIDが作成した「LED三角灯籠」を設置し、会場だけでなく街全体を幻想的な雰囲気でも彩りまちの一体感を創出しました。



運動効果

参加者の方から「瀬戸市の魅力は「やきもの」と「自然」であることはなんとなくわかってきたが、今回、再認識することができた。『瀬戸に住んでいるのが恥ずかしい』と思っていたのが少し誇りに思えるようになった。ありがとう。』と言葉をいただきました。また、瀬戸市は大学の流出が続いており、若い学生の集まる機会が減少していますが、この事業を通じ、瀬戸のまちと学生団体との中長期的な関わりを形づくることができ、次年度以降もNanzanAIDとの協働をすることとなりました。加えて、本事業において、元々違う団体が管理する会場を横断的に使ったことで様々なまちのステークホルダーをつなぐことにもなり、まち全体で今回の事業を応援してくれる体制をつくることができました。他団体でも様々な時期に実施しているまちのイベントを集め、メインコンテンツとして本事業の取組を据えるような動きも出てきています。このような結果からまちへのインパクトを与える結果となったと考えられます。

わが街大作戦

～君の一票は誰のタメ?～

一般社団法人山口青年会議所

～事業に懸ける想い～

山口市選挙管理委員会に伺い、山口市の主権者教育の現状と投票率の推移、またその対策で実行していることをヒアリングした。また、新しい民主主義を提言している日本政府の動向の調査や学生を主体に啓蒙活動を実施している松山市選挙管理委員会や鹿児島市選挙管理委員会にヒアリングを行った。調査の結果、学生など若年層が主体となって考え、実行、伝播して仲間を多く集めることが第一段階と考えた。また政治に興味のない人が一定数いることも分かっていたので、その対象者が興味を持てる事業を同時に実施する必要があると考えた。センキョコンシェルジュ山口を立ち上げて、合計9名の学生を中心に啓蒙チラシのデザインやどのように主権者教育を行えば興味を持ってもらい、投票に赴くのかを話し合った。また、政治に興味のない人には一般社団法人選挙割協会のご協力を得て、センキョ割を実施することで政治(官)と民の距離を短く感じてもらう事業(新しい民主主義)を実施することにした。



事業背景

山口市における次世代を担う若年層の投票率の低下は顕著になって表れており、若年層に向けての対策が重要視されている。選挙年齢引き下げにより出前投票を実施しているが、選挙年齢引き下げ年度以降、実施数は右肩下がりになっている。また、成人年齢が2022年4月から引き下げになることで、より社会人としての責任と自覚をもって行動することが若年層に求められる。しかし、シルバー民主主義と揶揄されている政治政策が現在、存在している。またこの問題は若者だけの投票では正することは難しい。



事業目的

第一に、政治やボランティア活動に興味のある若年層に政治的・社会的課題の解決を促す思考や機会を与えること。それにより自主的に行動、活躍できる場所の拡充、また多くの人に伝播することを目的とする(啓蒙活動団体センキョコンシェルジュ山口の設立)。第二に、政治や社会課題に関心のない若年層に対して政治が身近なものとして認識してもらうため、政治参加が自分にとってメリットがあると感じてもらう。それにより政治的関心・選挙(投票)への関心を高め、多くの人に伝播することを目的とする(山口センキョ割の実施)。



事業概要

【啓蒙活動団体センキョコンシェルジュ山口の設立】

山口市内に在住もしくは在学の大学生(山口大学・県立大学など)を9名集い、山口市選挙管理委員会と明るい選挙推進協議会、山口青年会議所の三社協定で上記団体を設立。主体的な内容は啓蒙活動や主権者教育の実施、チラシの制作、投票所の立会人など。

【山口センキョ割の実施】

選挙割協会の協力のもと山口青年会議所が主体となって協力企業を集う。投票前前で記念撮影した写真や投票済み証明書を見せることによってその企業独自の割引やサービスを受けられる。



運動効果

大学生が主体となって政治参加を呼び掛ける試みは大学生でも社会に対して意見や行動が起これるということが多くのメディアや活動を介して多くの人に伝えることができた。また、センキョコンシェルジュ山口の活動は多くの主権者教育受講者が政治や選挙、地元の自治体、社会課題に目を向ける機会が提供できた。また、センキョ割に関しては投票という公正公平を尊重するイベントにて企業がサービスや割引を提供できるという新しいサービスの周知ができた。

事業褒賞部門 最優秀LOM地域社会向上プログラム

長月桜祭り

～そうだ 甲突川、行こう。～

公益社団法人鹿児島青年会議所

～事業に懸ける想い～

桜をピンク色にライトアップし花見を演出しました。鹿児島市の甲突川は、鹿児島青年会議所の先輩方が甲突川千本桜という事業を通して桜を植樹したことを発端に花見の名所として市民に愛されてきました。しかしながらコロナの影響で花見が制限されていたので、春以外でも甲突川ににぎわいを生ませるために秋の花見として本事業を構築しました。



事業背景

これまで鹿児島青年会議所は甲突川で様々な事業を行ってきました。その結果、甲突川は桜の名所として広く市民に愛される憩いの場となりました。しかし、近年ではコロナの影響で花見が自粛され、また鹿児島中央駅・天文館の再開発により双方の間にある甲突川への市民の意識が低下しています。甲突川の魅力を市民が再認識し、その魅力を活用するきっかけを作ることで、甲突川を中心とした新たな人の流れが生まれまちの発展につながります。そこで、多くの人々が甲突川に足を運ぶきっかけを作ることを目的として本事業を計画しました。



事業目的

【対外】
甲突川の魅力を再度掘り起こし、メンバー一人ひとりがまちづくりへ意識を高めることを目的としました。

【対内】
市民が甲突川の魅力を再認識する為に、実際に足を運ぶきっかけを作ることを目的としました。



事業概要

事業のメインとしては、9月に桜の葉をピンク色にライトアップして秋に桜が咲いている演出をしました。合わせて以下の通り行いました。

- ① 出店の出店
→ 地元の食材を使った食材を扱う飲食店を10店舗出店しました。
- ② 子供たち、学生及び有志団体によるステージ発表
→ 歌、ダンスを中心としたステージイベントを実施しました。
- ③ 川床の設置
→ 甲突川の河川敷に赤毛氈を敷き盤古、傘を設置して川床を作りました。
- ④ 甲突川未来デザインブース
→ 来場されたの描く理想の甲突川についてアンケートを集めました。また、ブース内には鹿児島JCと甲突川のかかわりの歴史を綴ったパネルを設置しました。
- ⑤ 植樹体験
→ 事前に募集した子供たちに桜の植樹を体験してもらいました。



運動効果

コロナ禍により様々なイベントが中止されている中、本事業を行うことで沢山の市民に来場いただき数多くの喜びの言葉や今後も継続してほしいという励ましの言葉を頂きました。中にはコロナによって2年以上会えなかったお孫さんとこの事業がきっかけで会うことができたという感謝の言葉もあり、桜をライトアップするのみならずご来場いただいた市民の心にも灯をともすことができました。

公益社団法人鹿児島青年会議所

住所 鹿児島市新照院町41-1 城山ホテル鹿児島内

AWARDS JAPAN 2023

Junior Chamber International

事業褒賞部門

最優秀LOM個人能力開発プログラム

事業褒賞部門 最優秀LOM個人能力開発プログラム 第9回JCカップU-11少年少女サッカー大会 茨城大会エリアD予選会～振り向くな!夢を掴め～

一般社団法人茨城南青年会議所

～事業に懸ける想い～

本大会は大会のさらなる成長のためにブランディングも兼ねて、様々な工夫をしました。

- ①会場に関して地域を代表する大学トップリーグのサッカー部に会場をご提供いただき、地域に住み暮らす子供達が夢のような環境で試合が行える工夫しました。
- ②この大会が、地域に支えられながら更なる成長を遂げるため、協賛金という形で、大会を支えてもらい、地域になくてはならない事業のブランディングへとつながりました。※協賛企業2社
- ③茨城県サッカー協会インクルーシブ委員会のご協力の元、障害者サッカーのアドバイザーと備品を無償でご提供いただき、同地区でサッカーと通して活動するもの通し、持続可能な関係構築ができました。



事業背景

2022年度サッカーW杯カタール大会も開催され、歴代最高タイの結果に終わった中、国内のサッカー熱もこれまで以上に高まっております。2022年度茨城大会でも、過去最高参加チームの応募があったにも関わらず、7割近くのチームが大会に参加できなかったのが現状です。そこで2023年度は、より多くの少年少女に「夢を掴む」機会を提供することが必要です。



事業目的

- ＜対内＞
本年度、初めてのエリア合同事業でもある当事業を通して、エリア共同の重要性や活用方法を体験してもらい、今後の参考となる連携の形を構築することを目的とします。
- ＜対外＞
より多くの子供たちに、スポーツを通して勝負を楽しみ、相手を尊重する気持ちを育むことで、夢を掴む1歩を踏み出す勇気と喜怒哀楽の豊かな感情を育むことを目的とします。



事業概要

- 例年、茨城県の大会として茨城ブロック協議会運営の元開催した大会となりますが、2022年度の応募チームの約7割が出場できないほど、多くの募集がございました。そこで県内を4つに分断し、県南エリアとなる「エリアD」を茨城南JCが担当し開催させて頂きました。本大会は3つのミッションを掲げ大会の運営を開催。
- ①応募チーム全チームの参加を受け入れる
結果:16チームの応募を全て受け入れ大いに盛り上がりました。
 - ②スポーツの実施
結果:障害者サッカー2種類(ブラインドサッカー・アンプティサッカー)の体験会を常設し、参加選手の8割が体験。
 - ③ペーパーレスと情報共有
結果:全ての対戦カードや結果をクラウド化し、当日現地に来れなかった保護者やファンの皆様にもいち早く結果をお伝えするべくスプレッドシートで結果を共有しました。



運動効果

- 1.参加者
例年この地域からの参加者は2~3チームほどでしたが、関口を広げ開催したことで、16チームにご参加いただき、競技を通じたグッドルーサーの精神を育めたことはもちろん、青年会議所の存在を遺憾無くPRできる機会になった。
- 2.地域企業
会場提供元の大学や駐車場提供の大手ハウスメーカー、更には、大会をサポートしていただいた協賛企業など、今年初めてとなる大会への理解の向上や組織の価値向上は、今後この地域で運動を行う善き理解者として賛同を得る結果となった。また、本大会には参加者である小学生から協力者の大学生と様々な方々にご協力いただいたことで、幅広い世代への周知に繋がったことや、サッカーを通して地域を盛り上げる新たな繋がりと、大学とスポーツ少年団が後に、大会へのエスコートキッズを集めたり、共同イベントを開催するなどの相乗効果も繋がった。
- 3.青年会議所
今年初めての合同事業の開催は、主管となった茨城南青年会議所のメンバーはもちろん、近隣LOMとの現状を確認する良い機会に繋がっており、各LOMの特色を生かした検証など、できたことは汎用性の高い引き継ぎへ繋がっており、LOMだけでは見えてこない検証に更なる成長の機会、この地域で様々な事業を開催する我々にとっては、更なる成長へ繋がった。

事業褒賞部門 最優秀LOM個人能力開発プログラム 七尾市における持続可能な地域社会の 創り手育成(ESD)推進事業

一般社団法人七尾青年会議所

～事業に懸ける想い～

持続可能な社会を目指すため、様々なまちづくりアプローチを行ってきたが、その中でその必要性を痛感したものが「人財育成」であった。その原点は、青少年の郷土愛、地域を誇りに想うシビックプライドの醸成と、持続可能な社会を創造する次世代の担い手を育成するESD(エデュケーション・フォー・サステナブル・ディベロップメント)という方向性であった。2023年にAWARDS JAPAN2022にてグランプリ受賞をいただいた「地域の未来ビジョン策定事業」においても、「将来生まれてくる子供たちに持続可能な未来をプレゼントしよう」という想いから始まっている。そして、我々を含む多くの市民が「子供たちのため」というキーワードに共感し、その結果、市民主体の未来ビジョンが策定されたと考えている。また、地域の市民が大きく関与したESDを青少年期に受講した学生は、この地域や多くの市民の関与によって育てられたという意識を持った人財へと成長し、自らも次世代の担い手候補に向けたESDや高齢者世代への恩返しを目的とした行動へと繋がる「ひとつづくり好循環」を創造することができるという考えのもと取り組みを実施してきたものである。



事業背景

2017年から順に公示された小・中学校学習指導要領及び高等学校学習指導要領において、持続可能な開発のための教育(ESD)による持続可能な社会の創り手の育成が掲げられた。また、2019年の第74回国連総会でも「持続可能な開発のための教育:SDGs実現に向けて(ESD for 2030)」が承認され、ESDの強化とSDGsの17の全ての目標実現への貢献を通じて、より公正で持続可能な世界の構築を目指すこととなっている。これらを背景に、七尾市の教育現場では、2020年に入りESDの実施を組織的に取組もうとしていた矢先、新型コロナウイルス感染症蔓延が地域社会の状況を大きく変貌させてしまったことから、VUCA時代に即したESD推進が不可欠となった。時を同じくして、七尾青年会議所ではひとつづくりとまちづくりの両輪を融合させた個人能力開発プログラムの設計を模索していたことから、教育現場ニーズを踏まえた持続可能な地域社会の創り手育成(ESD)推進事業の開発に着手するに至ったものである。



事業目的

第1の事業目的は、各教育現場の支援ニーズに合わせ、柔軟にプログラムや支援策を組み合わせることでできる支援パッケージを開発・改良することである。具体的には、主体的・対話的で深い学びの視点から、地域の課題解決的な学習を適切に位置付けるなど、探究的な学習過程を重視し、地域や大学・企業との連携の視点を取り入れた学生を中心とした主体的な学びの機会創出を支援するものである。
第2の事業目的は、学生の価値観の変容を引き出すこととした。知識や理解に留まらず、学びを活かし、様々な問題を自分の問題として行動する「実践する力の育成」を目指し、「持続可能な社会の構築」という観点を意識できる能力の開発を目的としている。ESDは持続可能な社会を目指して行動できる地域社会の創り手を育てるための教育であり、SDGsの探究と言える。そのため、その対象は学生に留めず、全年齢層の能力開発が可能なプログラム構築が必要であると考えた。



事業概要

「小学校・中学校・高等学校におけるESD支援事業」では、ESDの実施に取組もうとする教員および学校を支援・連携対象として、スポット型および伴走支援型の2方法で共創している。具体的には、学校が取組もうとする指導計画の立案段階より参画し、生徒の学習レベルや関心を寄せる地域課題、学校側の授業計画数などに合わせ、スポット型でのグループワークの実施や、学校側ニーズに合わせた地域事業者とのマッチングを踏まえた長期的な伴走支援を行い、実践型ESDを推進している。
「全年齢層を対象とした能登SDGs市民大学事業」では、地域のあらゆる主体をESDの対象と捉え、全年齢層が持続可能な社会の創り手となるための学習機会を提供している。具体的には、ローカルSDGsをテーマに当地域の経済・社会・環境に対し、どのようなアプローチが可能か、その先にどのような地域の持続的発展性が考えられるかについて、グループワークや座学を通じて学ぶ機会を提供している。



運動効果

本事業では持続可能な地域社会の創り手育成(ESD)を目的に、当青年会議所が地域のハブとなり、教育現場の支援ニーズを徹底して拾い上げ、地域リソースと教育現場のマッチング支援や授業実施の支援を行っているが、ESDの推進が持続可能な地域づくりにもたらす影響は極めて大きいと言える。なぜなら、過疎化や高齢化、産業の空洞化、自然環境の荒廃などに直面している七尾市では、まさに環境、経済、社会のあらゆる視点でESDの必要性に直面しているからである。また、地域住民が主体的かつ創造的にESDに参加することなしには、持続可能な地域づくりの継続はありえず、ESDの推進によって、その担いがまた持続可能なものになっていくと分かる事業結果が得られていることから、今こそESDを推進していくことが必要不可欠である。これらの理由から、このESDの推進が地域社会において市民的な大きな運動へと今後確実に広がっていくと考えられる。

一般社団法人七尾青年会議所

住所 石川県七尾市三島町70-1 産業福祉センター4階

事業褒賞部門 最優秀LOM個人能力開発プログラム

若者によるまちづくり

「Sendai Future Generations」

公益社団法人仙台青年会議所

～事業に懸ける想い～

若者が中心となりまちの課題を検討し、産官学民連携のもと、課題解決事業を実行に移した。

【住チーム】・緑豊かな、美しい「社」都で、市民一人ひとりが健康的な生活を送るまちの実現を目指し、「ゴミ拾い」×「ウォーキング」を実施。

→一見してまちを綺麗にできたとともに、市民のまちの美化、健康に対する意識が高まった。

【食チーム】・ゼリーのまち仙台と呼ばれていた歴史を活かして、新しい仙台名物を作り、観光客増加につなげることを目的とし、ゼリー商品販売店で構成されるゼリーマップの作成、ゼライス

株式会社の支援を受け地元素材を活用したゼリーの新品を開発・試供(仙台ゼリー探検隊https://www.instagram.com/sendai_jelly/)。

→新しい仙台名物としてのゼリーを市民に広くPRすることができた。

【観光チーム】・仙台を訪れる観光客や交流人口の増加をはかり、仙台市民が地元の観光資源に目を向け、発信する機会をつくることを目的とし、仙台体験がチャプロジェクトを立案。

→地元にある観光資源への関心や認知度を高める効果、体験プログラム等の持続可能性を高める効果が期待された。

【教育・子育てチーム】・男性の育児参加を促進し、家族が子育てしやすいまちを創造することを目的とし、親子で手作り本物そっくりギターの制作及びパパ座談会の実施。

→父親の積極的な育児参加への意識やコミュニティに関わる意識を高めることができた。



事業背景

我々の住み暮らす杜の都仙台は、「学都」として知られ、18歳から22歳までの人口流入が非常に多い一方、23歳以上の若者の転出が止まらず、生産年齢人口の減少が続いている。そこで、仙台に住み暮らす20歳から30歳までの若者が、産官学民と連携のもと、まちの課題解決に当事者意識を持って取り組むことで、住み暮らすまちへ愛着を持つとともに、若者が住み暮らしやすいまちを実現し、生産年齢人口の増加、ひいては持続的な発展を遂げるまちの未来につながるものと考えた。



事業目的

対外

- ・若者が仙台まちの課題解決を考え行動する当事者意識を高める。
- ・産官学民が一体となって地域の活性化に取り組む必要性を理解する。
- ・地域に活力を与える地域活性化策を確立する。

対内

- ・メンバーが地域のリーダーとして仙台まちの活性化に率先して取り組む意識を高める。
- ・産官学民が連携し、次代を担う若者が活躍できる環境づくりの必要性を理解する。



事業概要

<若者によるまちづくり事業>

【フェーズⅠ】

20歳から30歳までを対象にまちづくり運動参加者を募集し産官学民の連携基盤構築した。

・アイリスオーヤマ株式会社社長大山晃弘氏、YAMAGATA DESIGN株式会社社長山中大介氏に、まちづくりの考え方、産官学民の連携の重要性、仙台の魅力や課題等について講演をいただき、若者によるまちづくり事業への参加者を募集する公開例会を開催(12名参加)。

・産(民間企業)には、本事業の理解と参加する社会人の輩出、及び協賛を依頼。

・官(行政)には、サポート職員の輩出依頼と、事業構築への協力・支援を依頼。

・学(教育機関)には、本団体へ参加する学生の輩出を依頼。

【フェーズⅡ】

参加者(20名の若者)が「食」、「住」、「観光」、「子育て・教育」グループに分かれ、行政や民間企業のサポーターから支援を受けながら、それぞれがまちの課題解決事業を構築した。

・参加者に運動論やまちづくり事業の考え方を伝え、まちの課題を考える事業構築セミナーⅠを開催。

・山中大介氏より、事業構築の具体的な助言を受けるセミナーⅡを開催。

【フェーズⅢ】

各グループが考えた課題解決事業を実行、検証。

【フェーズⅣ】

本事業の実績をもとに、若者によるまちづくり団体、「Sendai Future Generations(SFG)」を設立。2023年度は更に活動を活性化させ、3つの事業を構築、実施。



運動効果

【仙台への影響】

・事業構築のプロセスで仙台市職員2名がサポーターとして参加し、仙台JC及び若者たちとの連携を深めた。更に行政のみでは実行できない、より市民に近い事業が実行できた。

・参加者のまちの課題に向き合う当事者意識を高めることができたとともに、参加者の意思でSFGが設立され、本事業以降もまちの課題解決に取り組む事業を実施しており、仙台の未来のリーダーとなる人材を輩出できた。

【企業への影響】

・地元企業の若手社員を参加させることで、人財のリーダーシップのスキルアップができた。

・各グループに地元企業で働くスタッフがサポーターとして関わることで、新卒者への企業アピールを可能にした。地元企業の魅力を伝え、地元就職への関心を深めた。

AWARDS JAPAN 2023

Junior Chamber International

事業褒賞部門

最優秀LOM拡大開発プログラム

事業褒賞部門 最優秀LOM拡大開発プログラム

はまファンクラブ

一般社団法人横浜青年会議所

～事業に懸ける想い～

コロナ禍により活動制限があったため、活動内容を改めて説明することも必要となり年間を通してのはまファンクラブメンバーの活動と横浜青年会議所との交流する計画を立てました。2023年1月～5月にはまファンクラブ新規メンバー募集。1月～2月は新規メンバーを交えての交流会。3月は横浜青年会議所の例会へ参画。4月以降は、横浜青年会議所及び関連する諸大会などに活動参加及び参画する運びとなります。実際の活動内容としては、横浜開港祭、サマーコンファレンス2023、グローバルサウンデーマーケット2023など、ブース出展が必要な事業にはまファンクラブメンバーとして一つブースの担いを提供させていただきます。また、横浜青年会議所の事業であるApril True Projectには実際に参加者として事業を体験、はまっこスクール2023では運営協力及び子供たちと共に事業に参加をして学びを経験していただきます。



事業背景

新型コロナウイルスの影響等により人と交流する機会が減少したことで、充実感や将来への希望といった若者の感覚に影響を与えています。持続して明るい未来に向けたまちづくりを行っていくためには、次世代を担う者たちが主体的に行動できる人財へと成長していくことが求められており、明るい豊かな将来像が描けるよう、ひととの交流を前提とした自己成長の機会を継続的に創出する必要があります。また、横浜青年会議所のメンバーとの活動は、個人の価値観、物事の捉え方の幅を広げることにつながるため、青年経済人との交流の機会を創出する必要があります。



事業目的

はまファンクラブメンバーが横浜青年会議所の運動に携わることにより、まちづくり、人財育成の活動に対する理解が深まり、さらなる共感が生まれ、横浜の活性化につながる。はまファンクラブメンバーの充実感や自己肯定感が高まることにより、未来のまちのために主体性のある行動ができる人財の輩出につながる仕組みを創出することを目的といたします。また、横浜青年会議所メンバーがはまファンクラブメンバーと交流し活動を共にすることにより、横浜青年会議所メンバーの成長につながることも目的といたします。



事業概要

2019年度に横浜青年会議所の対外向け事業に関する市民動員のプラットフォームとして、はまファンクラブが創設されました。2020年、2021年は活動を継続してまいりましたがコロナ禍によって交流機会が減少、2022年ははまファンクラブとして年間活動を実施致しませんでした。結果として、現在連絡を取り合える可能性のあるメンバーは数名程度までに減少しました。2023年度は再始動の年としてメンバーの募集を新たに行いながら活動し、はまファンクラブメンバーに横浜青年会議所の各事業に主体的に参画していただける内容といたします。主体的に地域のために活躍できる人財となっただけでなく、横浜青年会議所の持続的な運動に連携してパートナーとして共に成長していただきます。



運動効果

2019年から年齢、性別、人種、信条に囚われない人財として当時は高校生にも学びを得ていただきたく高校生、大学生で構成されていました。現在の運用としては18歳～38歳の方々をメインとして活動をしています。この年齢は社会としてもリーダーとして活躍が期待できます。青年会議所は地域のリーダーを育成し、あらゆる場面で活躍できる人財になるために機会が提供されている組織です。その組織のメンバーと共に活動することにより、携わったはまファンクラブメンバーにとっても考え行動する大切さが備わることになります。学生では社会に出て醸成されている知識や経験が身についた状態が始めることができます。また、社会人の方がはまファンクラブとしての経験をすることは、自分の価値や知識を更に広げることができます。リーダーとなるべく人財の育成につながり社会に良い影響を与えることができます。

事業褒賞部門 最優秀LOM拡大開発プログラム

高校生と共に、 明るく豊かな持続可能な新庄もがみを

公益社団法人新庄青年会議所

～事業に懸ける想い～

【公開討論会】高校生に行政について興味があるか聞き取り。興味がないが多く、興味を持ってもらうために村の郵便局の装飾を行い、地域を知る。公開討論会のために地域課題の抽出、検討を行う。候補者を学び、質問を考える。質問し、回答をみんなで聴き、「なぜ？」を考える。アンケートを実施。

【新庄雪まつり】持続可能な雪まつりにするために高校生へ協力依頼。テーマを「可能性」とし、司会を行ってもらうことで、多くの来場者に高校生との協働を周知する。企業ブースの運営、ワークショップの運営を行う。ステージイベントで演奏。地域の子供たちの目標や憧れになる。自分たちが楽しんできた事業が新庄青年会議所が52年受け継いできたこと。自分たちが楽しませる側となったことでの地域貢献活動の気づき。

【中期ビジョンの策定】公開討論会前の事前の学び。最上8市町村の地域課題の抽出。最上8市町村の地域の「数字」を抽出。それぞれの地域課題の同じ部分、違う部分、特徴的な部分を捉える。将来こうありたいと明るくわかりやすいビジョンをつくる。



事業背景

新庄もがみ地域は、若者が減少し、高校生活を終えた後もう二度とこの地域に戻らない若者も多くなっています。新庄市の出生数は2年連続で180人と、この地域は2日に1人しか新しい命は誕生していない現状がある。減っていく若者を追いかけるのではなく、私たちが希望を与え、この地域を愛し、この地域の人を愛し、住んでいても住んでいなくても、故郷が大好きだと自信を持って言えるようになってもらうために、私たちの運動を高校生と共にする必要があります。



事業目的

誰にでも開かれた政治選択の場を提供する公開討論会、我々が代々受け継いできた新庄雪まつり、地域益や社会益など多様な益について考えることのできる山形ブロック大会新庄大会における中期ビジョン策定を共に行い、高校生が地域の魅力や誇りを前向きに感じ、地域の課題と向き合い、私たち新庄青年会議所の運動について共感することで、自分たちが経験してきた事業や行政、これからの地域社会の在り方を今まで以上に自分事として捉え、自らの手で人生と地域社会を切り開くため。



事業概要

2月に開催された戸沢村長選挙立候補予定者による公開討論会を高校を会場に行い、高校生が質問者・傍聴者として参加。運営は新庄青年会議所が行う。6名の質問者が立候補予定者に質問し実施後アンケートを行う。出席者は2年生110名が参加。より多くの人にご覧いただくため、Youtubeにてライブ配信、アーカイブ配信を行った。新庄雪まつりにおいて、司会や企業PRブース運営・ステージイベント、子供向けのワークショップを協力。全体で100名以上の生徒が新庄雪まつりに関わった。山形ブロック大会新庄大会における中期ビジョン策定を12名の代表者で行った。前年10月に始めた、「地域を知る」という課題研究からその地域の昔を知り、今を学び、何を未来につなぐべきかを授業で考えた。地域の野菜や最上伝承野菜の生産者にインタビューを行い、東京で想いを伝え販売し、消費者の声を還元した。これから先10年後の最上8市町村の中期ビジョンを検討するにあたり、明るく、誰にでもわかりやすい将来を導いた。



運動効果

新庄雪まつりでの運動を見ていただいたことによって、高校生が楽しもうとする姿勢を発信できた。地域の大人たちが地域をあきらめている雰囲気がある中で、明るい青少年がいる未来を想像させることができた。公開討論会を高校で行ったことは新しいことで、メディアにも取り上げられた。新庄もがみ地域の高校生が今まで誰もなしえなかったことをしていることは地域の子供や大人たちにとってとても興味深く、刺激的な活動だった。中期ビジョンの策定について、発表の資料を山形県議会議員や新庄市議会議員に求められた。新庄青年会議所OBが私たちと高校生の活動をとても喜んでいて。県内他LOMへ私たちと新庄東高等学校の協働を伝えられた。

事業褒賞部門 最優秀LOM拡大開発プログラム

名古屋人間力大賞

～名古屋から世界に羽ばたけ～

公益社団法人名古屋青年会議所

～事業に懸ける想い～

名古屋人間力賞を開催するにあたって一番工夫した点は、エントリー者との関係を継続的なものにし、多様な社会課題に対して協働するための人財バンクをつくったことです。名古屋人間力大賞は今回で6回目を迎えましたが、過去の人間力大賞を振り返る中で『エントリーをしてくれた人財との継続的な関係が築けず、共に活動ができていない。』という課題がありました。過去には『受賞者の会』の様な試みもありましたが、コロナ禍で集まることができないうちに開催されることがなくなり、関係が希薄化してまいりました。名古屋人間力大賞が『傑出した若き人材を表彰して終わり。』という会になってしまっは意味がありません。人材バンクをつくることで多様化する社会課題に対し、いつでも協働できるパートナーとして手を取り合える環境をつくることができました。



事業背景

名古屋のまちには多くの傑出した若き人材が存在しているが、自身の魅力を社会に伝えることができていません。そこで、自らの魅力を社会に発信し、市民の共感の輪を広げる場を提供する必要があります。社会課題の解決を目指して活動をしている人の多くは目の前の活動に一生懸命になるあまり、自らの活動を社会に対して広く発信する機会を損失しています。そこで、活動家たちの活動を広く市民に発信することで、活動の認知が向上し、支援者や賛同者が増え活動家の活動の持続可能性が上がると言えます。また、活動家の活動を知った市民の中から新たな活動家が生まれることにより、名古屋の未来は輝かしいモノになります。



事業目的

(対外)
社会課題とその解決に向けての取り組みを知り、自らも社会活動に参加する意識を高めることを目的とします。名古屋人間力大賞に出ることで、エントリー者自身の価値をさらに高めることになり、人生のターニングポイントになるような機会を提供します。

(対内)
新たな社会課題とその解決を目指す若者の取り組みを知り、新たな運動構築を考える機会の提供と、若者の活動を発信するサポートに関わることで、名古屋のまちを良くするという名古屋青年会議所としての役割を再認識することを目的とします。



事業概要

社会課題解決のための活動・運動を続けている人間力あふれる若者を発信し、さらなる活躍への期待を込めて人間力大賞として表彰します。エントリー者を募集し、25名の方がエントリーしました。今年度は広く医療や芸術、教育、スタートアップ等、幅広い人材が集まりました。1次選考は書類審査を行い25名が通過しました。2次選考は動画を配信し視聴者の投票で審査を行いました。最終選考では選抜された10名のエントリー者に会場にてプレゼンテーションを行ってもらい、会場にいる方に投票いただきグランプリを決めました。名古屋人間力大賞のランディングページを立ち上げ、エントリーから最終選考会までの情報を発信しました。そのHPをきっかけに最終選考会に参加いただいた一般参加者が37名おりました。日本青年会議所のTOYP委員会とも連携し、エントリー者25名全員をTOYPにもエントリーすることができました。日本青年会議所にも名古屋で人間力大賞をやっているということを知りただけたと思います。



運動効果

社会課題とその解決に向けての取り組みを発表してもらうことで、名古屋のまちには多くの傑出した若き人材が存在しているが、自身の魅力を社会に伝えることができていないという地域の課題と人々のニーズを捉えたイノベーションを起こし、自らの魅力を社会に発信し、市民の共感の輪を広げる場を提供することで地域をより良くするリーダーを育成することができたと考えます。名古屋人間力大賞に出ることで、25名のエントリー者自身の価値をさらに高めることになり、人生のターニングポイントになるような機会を提供しました。それらの名古屋の傑出した若き人材の活動に触れることにより、固定観念や既成概念に捉われず、名古屋のまちにイノベーションを起こせる会員が増加した状態になります。通過者のLINEグループにて、自発的に自己の活動(講演会や著書出版、寄贈のPR)を発信し合う関係が構築されるようになりました。このような関係は現在も継続中で、エントリー者同士、著書を寄付し合ったり、講演会に出演したりとの協働・協力関係が生まれています。

公益社団法人名古屋青年会議所

住所 愛知県名古屋市中区栄1丁目15番24号

AWARDS JAPAN 2023

Junior Chamber International

事業褒賞部門

最優秀LOM国際協力プログラム

発奮!世界を結ぶ!わんぱくの“わ”!

公益社団法人東京青年会議所

～事業に懸ける想い～

(調査)ウクライナ支援を行っていたJCIポーランド、子供と女性の支援活動を行っていた一般社団法人ウスミシュカより、現地の状況、活動内容をヒアリングし、現地NOM、LOMとの連携方法を確認。国際アカデミーで来日していた海外NOMメンバーより協力を得た。日本ウクライナ友好議員連盟を通じて、外務省、在ウクライナ大使館の賛同を得た。在日本ウクライナ大使館においても賛同を得た。

(立案)わんぱく相撲ウクライナ大会の現地開催を立案。戦時下のウクライナでわんぱく相撲を開催するため、現地NOM、LOMと連携して、地域行政、多くの市民、両国大使館の賛同を得て、政府共催で国立大学の体育館を開催地として提供される。

(会議の流れ)大会を開催することが本当に求められていることなのか、ロシアにもNOMとLOMが存在する。多くの意見を踏まえて、慎重にエビデンスと賛同者を集め、実施に至った。



事業背景

(ウクライナ)2022年、ウクライナは平和を失ってしまった。多くの子供たちが傷つき、夢や希望を失いつつある。日本政府は、兵器等の軍事支援は避けるとしつつも、明確にウクライナ支援を掲げている。物資支援の他、日本文化を用いた交流支援を求めている。日本の市民が、ウクライナを支援していることを多くのウクライナの方々に知ってもらう機会が求められている。

(日本)2020年以来、新型コロナウイルス感染症蔓延による大会の中止・感染症対策による制限付きでの大会開催から、本年度は制限のない大会開催となった。これまでわんぱく相撲に取り組んできたLOMにとって、大会構築の経験あるメンバーの卒業、減少により、地域での開催を断念するLOMも散見された。わんぱく相撲をLOMで開催するメリット・価値・今後の可能性を再認識できる大会の開催が求められている。



事業目的

東京JCの代表的なリーダーシップ開発プログラムである「わんぱく相撲」を、将来の国際平和につながる人財育成のプログラムへと昇華させること。



事業概要

ウクライナの子供たちに夢や希望を届けるため、JCIウクライナ、JCIドニプロ、JCIポーランド、JCIドイツ、JCIエストニア、JCIリトアニア、JCIセントラルウランバートル、東京JC、一般社団法人ウスミシュカで7か国のグローバルチームを結成し、プロジェクトを計画・実行した。ウクライナ政府の賛同、ウクライナスポーツ省の全面的協力を得て、「第1回わんぱく相撲ウクライナ大会」を開催し、優勝者をウクライナ代表として招聘し、ウクライナ政府より感謝状を頂いた。
国内184の地域、モンゴル、ウクライナで大会を開催し、国内外で52,300件を超えるニュース記事、様々なメディアを通じて多くの市民の関心を集めた。多くの企業や市民の賛同と協賛を得たことで招聘が実現した。また、JCIがもつ国際的なネットワークと友情は、政府を動かし、多くの市民の賛同を得て、困難なプロジェクトでも実現可能であることを証明した。



運動効果

(ウクライナ)
・戦争遂行が政府・行政の最優先課題となっており、子供たちのケアまで対応ができていない。友好国から未来を担う子供たちを対象にした支援は本当にありがたい、という声を大使より頂いた。
・政府より感謝状を頂いた他、現地の行政からも感謝の言葉を頂いた。
・招聘したウクライナ代表の選手、保護者から、帰国後にこの素晴らしい体験を一人でも多くのウクライナ同胞に伝えたいと力強い言葉を頂き、多くのメディアにも取り上げられた。(モンゴル)
・当初は、相撲の強さを競う大会と当初は捉えていたが、「勇気」「礼節」「感謝」の相撲精神を学ぶことの大切さが、国内で大きな話題になっているという反応を得た。
(日本)
・行政、学校、地域の様々な団体を巻き込んで行う事業であり、青年会議所の認知、信頼醸成に貢献している。こうした経験の積み重ねから、ウクライナ政府と日本政府への賛同というアクションにつながった。

日比英会話交流会

一般社団法人南アルプス青年会議所

～事業に懸ける思い～

国際交流協会や市内高校へのヒアリング等をもとに計画しました。参加会員の71.5%が国際交流についての自信が深まったと回答をしました。予算10万円のうち、7万円を参加者向けの事前の英会話学習に使用した。オンライン開催にすることで会場費等を抑えつつ、極力効果を大きくするための振り分けができたと考えます。



事業背景

2019年に始まったコロナ禍の影響によって、南アルプス青年会議所においても活動が制限され、対外事業の実施が困難な状況となりました。一方で、コロナ禍の間に事業経験をもつ会員の多くが卒業しており、現役会員の事業運営のノウハウが不足している状況があります。

山梨ブロック協議会と連携して事業を実施することで、南アルプス青年会議所の事業運営能力を磨き、会員の資質を向上する必要があります。



事業目的

- 対外：南アルプス市の高校生が国際交流に対する自信を深め、意欲を高める。
- 対内：会員が対外事業実施の経験を得て、今後の実施への自信を深める。



事業概要

ZOOMを利用した英会話交流を実施して南アルプス市内高校生とフィリピンの高校生の交流を行う。

第1部 オンライン英会話トレーニング
【期間】9月11日～9月29日
【会場】各自宅
【利用サービス】産経オンライン英会話
【費用】参加費 無料
【内容】25分×12レッスン・自分で空いている時間に時間を指定して学習を行う・中学の文法表現を中心に英会話練習・交流会に向け自己紹介、学校紹介、など交流会で話すテーマを練習する

第2部 オンライン交流会
【日時】9月30日 19:00
【会場】各自宅
【利用ツール】ZOOM
【費用】なし
【内容】日本人高校生20名とフィリピン人高校生20名の計40名で交流・トークルームを8名(各国4名)+ファシリテーター1名×5ルームに分ける・自己紹介を行い質問を受け付ける(自己紹介5分+質疑5分)・フリートーク 30分(進行ファシリテーター)



運動効果

関係団体との連携を密にするきっかけづくりとなった。

事業褒賞部門 最優秀LOM国際協カプログラム

5月例会メインアワー 「ワールドテラス2023」事業

一般社団法人宮崎青年会議所

～事業に懸ける想い～

準備段階から各団体と連携をとることができ素晴らしい事業になりました。また、準備、本番と事業に関わる全員が自分の役割を果たすことで大きな問題もなく来場者や地域にとってとても価値のある事業になりました。来場者数に関しても約4000人以上の来場があったことから集客の面でもいい結果になりました。多くの来場者があった背景には、新型コロナウイルスが2類から5類に緩和されたことでもあります。Instagramのリアル動画投稿など時代に即した広報を行ったことも起因していると思われます。今後とも、今回関わって頂いた皆様との関係も継続し、広報や集客の方法に関してもしっかりと引継ぎを行い、地域にインパクトを与え続ける青年会議所となるよう次年度以降も運動を行ってほしいです。準備段階から在住外国人や諸団体と計画することでみんなが友達になれた良い事業となりました。地域に当たり前外国人が住み暮らし、在住外国人と地域住民が互いに支え合い生きていくことが当たり前になる世の中になるよう、今後とも宮崎青年会議所が率先して国際共生に向けた運動を行う必要性を感じました。



事業背景

外国人協会にヒアリングを行ったところ、在住外国人が日本のルールに適應できていないと日本人から偏見をもたれているという問題があり、この原因を令和3年度の県民意識調査から「回答者の85.4%が外国人や外国の団体との交流等に関連する行事に参加したことがない」と回答しているという部分だと考えます。文化だけではなくルール等も含めて共に考えることで、互いによりよい関係性を築くことができる状態にする必要がありました。



事業目的

外国人と共創・協働する機会をつくることで、外国人との共生を意識する市民を増やすことを目的としました。



事業概要

テーマを「ダイバーシティ&インクルージョン」、コンセプトを「Z世代と創るワールドテラス」とし、宮崎青年会議所主導で宮崎公立大学学生と在住外国人との連絡協議会(ワークショップ)を行い、共創によって「みやざき国際ナショナルフェスタ〜ワールドテラス2023〜」を実施しました。



運動効果

今回、来場者に対して外国人との交流・共生を意識していただき、今後国際交流をしたいと思う人の割合を90%以上に設定しましたがKPIを達成することができませんでした。来場者に対してコネクティブスペースやワールドファッションショーへの参加呼びかけの工夫をする必要があると考えます。

一般社団法人宮崎青年会議所

住所 宮崎県宮崎市松山1丁目12-7 大春ビル3F

AWARDS JAPAN 2023

Junior Chamber International

最優秀会員

最優秀会員

2024.01.20

2024年度 京都会議

Stand up, Leaders!

「AWARDS JAPAN 2023」

当日発表!!

AWARDS JAPAN 2023

Junior Chamber International

事業褒賞部門

最優秀好循環地域確立プロジェクト賞

事業褒賞部門 最優秀好循環地域確立プロジェクト賞

名古屋の魅力 ポップカルチャー花火フェス

公益社団法人名古屋青年会議所

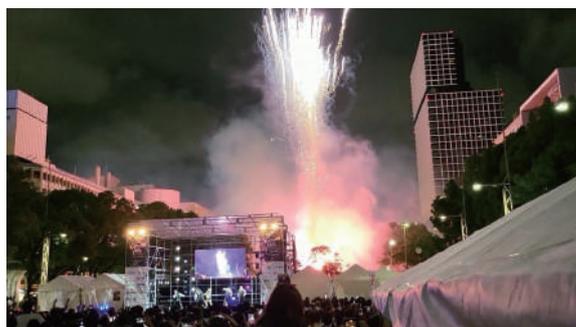
～事業に懸ける思い～

名古屋市の宿泊客の動向等を調査し、現状では名古屋を訪れる人は多いが名古屋のイメージはあまりよくないことが明らかになりました。名古屋市はコスプレやアニメを名古屋のブランド力を高める新たな文化として発信し続けており、「コスプレの聖地となるための継続的なコスプレイベントの実施」や、「アニメツーリズム推進」を謳い、市の総合的なブランド戦略に位置付けて推進するコンセンサス確立してきました。そして、「Kawaii(カワイイ)」という言葉は世界各国で共通語として使われていることから、コスプレ×Kawaii(カワイイ)をコラボし、新たなポップサブカルチャーイベントを名古屋から行いました。また、コロナ禍以降、郊外のアウトドアレジャー施設や大規模な公園といった屋外施設が集客に成功しているが、都市部へのレジャーや旅行は回復に向かいつつあるもののまだまだ戻ったとは言えません。そのため、今までにない都市型花火という夜間イベントを開催しました。



事業背景

リニア中央新幹線の東京・名古屋間が竣工すれば名古屋は多くの観光客が流入する中心地となります。しかし、現状では名古屋を訪れる人は多いが名古屋のイメージはあまり良くないのが現状です。そこで、来訪者に名古屋の魅力を知ってもらい訪れてもらうきっかけをつくり、より多くの魅力発信ができるきっかけをつくる必要があります。



事業目的

たくさんの人が名古屋を訪れ、訪れた人たちが新たな名古屋の魅力に気づき名古屋が面白いまちだということを感じ、名古屋の観光資源の魅力を発信することにより好循環が生まれ、積極的に来訪したくなるまちとなり、経済効果が生まれる社会を目指すことで、名古屋に来るきっかけをつくり、魅力を認識させ自ら発信する人を増やすことを目的とします。



事業概要

名古屋の魅力を集めたポップカルチャーフェスを実施しました。従来の例会形式にとらわれずフェス型の例会を開催したことで、名古屋市外の方が名古屋を訪れるきっかけをつくり、都市の魅力を来場者に認識させ、その魅力を発信する人を増やしました。名古屋出身のコスプレイヤー・えなこ氏をお呼びし、名古屋発祥のワールドゲームサミットというeスポーツとコスプレを掛け合わせた新たな名古屋の魅力を発信しました。名古屋は日本で最もアイドルを多く生み出すアイドル文化があります。そんなアイドルたちや、「お帰りなさいませ、ご主人様」発祥のメイドカフェのメイド100人によるステージを実施しました。サブフォーラムでは、「名古屋の中心で育児を叫ぶ」のステージや、赤ちゃん休憩室、妊婦体験も開催しました。さらに、メインフォーラムの都市型花火ミュージックショーでは、名古屋出身の歌手・May'n氏によるカウントダウンライブと、MIRAI TOWERを花火色にする点灯式と同時に、名古屋では史上初の都市型花火の打ち上げを行いました。



運動効果

参加者64.8%の方が名古屋市外からの来訪でした。宿泊や交通といった点で、一時的な経済的影響を与えました。また、協賛していただいた企業がブースを出し広告効果を、キッチンカーを出店した企業には直接的な利益を創出することができました。今回の会場となった久屋大通公園は、名古屋市が発行している『栄地区グランドビジョン』において、「100m 幅員を活かしたスケール感のあるシンボル空間」とされているとともに、今後の活用方針・再整備計画に注目が集まっています。本プロジェクトにおいて、この久屋大通公園に日本中から注目を集めるような画期的な活用方法を創出しました。さらに、公園規制・条例の変革をもたらし、海外への発信、インバウンド来訪客集客の増加等、名古屋の観光業促進の一躍となりえる経済的影響を与えたプロジェクトとなりました。

公益社団法人名古屋青年会議所

住所 愛知県名古屋市中区栄1丁目15番24号

事業褒賞部門 最優秀好循環地域確立プロジェクト賞

中学生MIRAIサミット ～未来へ届けこのメッセージ～

一般社団法人日光青年会議所

～事業に懸ける思い～

事業前に、日光市の市長、教育長、校長会の会長とのヒアリングを実施しました。その後、各学校の生徒会へアンケートを送付し、アンケート結果を元に対面とwebを併用して生徒とのヒアリングを実施しました。ヒアリングで聴取した内容をもとにその後のwebミーティングの議題を選定しました。webミーティングは各中学校の代表者のみの参加だったので、各学校へwebミーティングの内容を展開するための新聞を青年会議所が発行しました。サミットの議題については、webミーティングの内容を考慮し委員会で議題を選定しました。サミットの会場として、当時G7サミットの会場候補地として名前が挙がっていたザ・リッツ・カールトン日光と打合せを行い、会場に選定しました。サミットには日光市にも相談し、日光市長に参加していただきました。新聞社や地方テレビ局にも案内を行い、サミットの内容を各方面で取り上げていただきました。



事業背景

日光市は2006年3月20日、旧今市市、旧日光市、旧藤原町、旧足尾町、旧栗山村の2市2町1村の合併により新たに誕生しました。それにより日光市は全国3位の広大な面積を誇り、豊かな自然環境と貴重な歴史的・文化的遺産、随所に湧出する豊富な温泉など、恵まれた観光資源を複合的に併せもつまちへと生まれ変わりました。しかし、日光市の2020年の総人口に占める65歳以上の割合(高齢化率)は36.2%で3割を超えており、全国平均(28.7%)よりも7.5ポイントも高い状態です。また、少子化により2006年当時7,954人いた15歳以下の子供が現在は5,000人を切っており、それに伴い小中学校の小規模化も進んでいます。さらに、日光市の子供たちは7割以上の中学生が市外の高校へ進学しており、中学校を卒業すると同時に地域を離れてしまうため、地域への愛着が育みにくくなっています。



事業目的

日光市には15校の中学校があり、全ての中学校に生徒会が設置されています。そのため、事業対象者を日光市内の中学校の生徒会代表者としました。日光市内の小中学生には、GIGAスクール構想の一環として、1人1台iPadが貸与されています。そこで、まずは対面ではなくiPadを利用したwebミーティングを月1度の頻度で計5回開催しました。webミーティングでは、事前に生徒に実施したアンケート結果に基づき、iPadの活用方法や日光市の魅力を上げる方法などの議論を行いました。そして、G7サミットの会場として当時検討されていた、ザ・リッツ・カールトン日光にて中学生MIRAIサミットを開催しました。サミットで生徒から出された意見は提言書として、日光市長に提出しました。また、サミットに参加した生徒には、サミット終了後、地域のゴミ拾い事業への参加やキャンプ場でBBQを実施し、交流を深めました。



事業概要

地域への愛着は、私たち青年会議所がそうであるように、地域を想う友と議論を重ね、未来を想像することで、より強く育むことができます。地域への愛着を育むことができれば、例え将来1度地域を離れたとしても、地域を想う大人に成長できるはずで、2006年に市町村合併を行い約15年が経過した日光市において、そのまにに暮らし15歳を迎える中学校の子供たちと共に、自分自身の未来、学校の未来、地域の未来について議論を行い、子供たちの声を地域に発信することで地域への愛着を育むことを目的に、事業を実施しました。



運動効果

日光市では、2023年より新たに学校と地域が連携して、教育や地域とのつながりを議論する学校運営協議会という組織が誕生しました。当初、協議会の委員は教育委員会が任命した学校の教職員や地域団体関係者などで構成される予定でしたが、サミットを受けて現役の生徒会役員にも協議会に属してもらおうという動きが出ています。サミットを通して、子供たちの声が地域を盛り上げるための力になることが認められた結果であり、子供たちにとっても地域と交流できる場面を増やすことができたと考えます。

一般社団法人日光青年会議所

住所 栃木県日光市平ヶ崎200-1

事業褒賞部門 最優秀好循環地域確立プロジェクト賞

ココロオドル GIFUsummerFES 2023

一般社団法人岐阜青年会議所

～事業に懸ける想い～

1月から若者を中心として多様な人々を募集し、59名の実行委員会を組織しました。3月から7月の間に計4回の実行委員会で議論を重ね、イベント当日に向けてコンテンツを練り上げました。実行委員会では、好循環地域の確立に向けたストーリーを立て、そのストーリーに沿ってまちに新たな魅力を生み出す仕組みを考えていきました。イベント当日は、各拠点でコスプレイベント、飲食、フリーマーケット、音楽・アートイベント、ファミリー向けイベントを行いました。各拠点は無料回遊バスでつなぎ、他の拠点でクーポン券として使うことができる謎解きイベントなどを行い、回遊性を高めました。生み出された各コンテンツは実行委員会に引き継がれ、次年度以降も変革も行いながら継続的に実施されていくこととなりました。



事業背景

ぎふのまちでは、中心市街地の賑わいを創出するために、行政・市民団体を中心に様々な取り組みが行われています。しかし、少子高齢化からまちの担い手が減少し、まちの活力が低下する中で、コロナ禍における外出機会の減少といった人々の生活様式や消費行動の変化を受け、中心市街地の交流人口は減少の一途を辿っています。ぎふのまちのセンターゾーンに賑わいを創出するためには、異なる強みをもつ多様な立場の人々がより強固に連携し、県内外から多くの人々がぎふのまちへ足を運ぶきっかけとなる仕組みを社会経済活動に落とし込むことが必要であると考えました。そこで、まちの賑わい創出に情熱をもつ多様な人々を集い、心躍るまちづくり実行委員会を組織し、若者を中心とした市民の方の発想を取り入れることで、ぎふのまちに賑わいを創出する複合的かつ継続的に開催可能な本事業を実施しました。



事業目的

県内外の多くの人々が魅力を感じる複合型イベントを開催することにより、センターゾーンに継続的に交流人口を増加させる仕組みを創出します。県内外の多くの人々には、若者の発想を起点とした事業を通じて賑わいを体感して頂き、更なる社会経済活動につなげて頂きます。若者を中心とする心躍るまちづくり実行委員会メンバーには多様な人々と情熱をもち粘り強く連携することで自らのアイデアを実現し、ぎふのまちに大きな変革を与えることができる経験から事業を継続開催していくことへの意欲を高めて頂きます。



事業概要

県内外から多くの人々を岐阜市のセンターゾーンに呼び込み、複合型イベントを開催しました。若者を中心とした心躍るまちづくり実行委員会が企画、運営し、ぎふのまちに賑わいをもたらしました。岐阜市センターゾーンを岐阜駅北口広場・玉宮エリア・金公園・柳ヶ瀬・ぎふメディアコスモスの5拠点に分け、若者の意見と連携パートナー企業の特性を活かし、エンターテインメント/若者/飲食/フリーマーケット/ファミリーの5チームが各拠点でコンテンツに沿ったイベントを展開しました。岐阜JCメンバーは、実行委員会メンバーと連携しながらイベントを設営して県内外の多くの人々と接し、人々がまちの変化を感じることを直接体感しました。各拠点を繋ぐ無料回遊バスを運行し、参加者が各拠点を自由かつ快適に巡ることができた仕組みを創出しました。



運動効果

来場者アンケートにて「ぎふのまちのセンターゾーンの各拠点に再び訪れようと思いませんか?」という設問に95.7%の方より肯定的な回答を頂きました。県内外の多くの方々にぎふのまちの魅力を知って頂き、センターゾーンに再び訪れたいとの意欲をもって頂きました。また、コンテンツが継続的に実施されることで若者の発想を起点としてぎふのまちに賑わいを創出する新たな仕組みが社会経済活動に落とし込まれました。若者にとっては自らのアイデアが実現される仕組みとなり、企業や市民がまちづくりに参画するきっかけになったと感じています。市民にとってはまちの文化や各拠点の特性を見直すきっかけとなり、若者の流出を防いで経済活動にもつなげる仕組みとなりました。

一般社団法人岐阜青年会議所

住所 岐阜県岐阜市神田町2-2

AWARDS JAPAN 2023

Junior Chamber International

事業褒賞部門

最優秀地球環境プロジェクト賞

事業褒賞部門 最優秀地球環境プロジェクト賞

カーボンニュートラルRPG

～主人公はキミだ!

一般社団法人広島青年会議所

～事業に懸ける思い～

まず委員会で自分達が「カーボンニュートラル」を学ぶことから始まり、取り組みが思うように進んでいない現状の原因を協議・追求し、導き出した答えとして、「意識」の所に問題があると考えました。学識経験者や行政等の調査も踏まえ、長期的な目標に対してこれから要となってくる将来を担う世代に早い段階からの意識付けを行うことが重要という解に辿り着きました。地球温暖化、気候変動という深刻な課題の中、子供たちには楽しく学んでもらう、ということに重きを置きました。教材映像は呉工業高等専門学校の先生と生徒と共に協議を繰り返しながら製作し、カードゲーム「カーボンクエスト」は大学の教授、各企業の代表者と協議を繰り返し、5月23日(月)に当事業の協力関係者と広島県情報プラザにて合同検討会を開催し、映像・カーボンクエストの完成を迎えました。

カーボンドラゴン(CO2排出)カード(10枚)



事業背景

地球規模の課題である気候変動問題の解決のため、世界各国が「2050年カーボンニュートラル」という目標を掲げ取り組みを進める中、私たちの住み着らす広島でもカーボンニュートラル実現に向けて舵が切られました。目標に向けた取り組みが加速しているとは言えません。その原因は、市民の大半が本当にやらなければならないという必要性を感じるまでに至っていないことに要因があります。取り組みの進む先進国では、教育段階での意識付けが強化されており、若い世代が関心をもって活動していくことは、長期的な活動を必要とするカーボンニュートラルの達成に向けて非常に重要なことと言えます。2050年の達成に向けて、これから将来を担う世代に目標は引き継がれていきます。市民が能動的に取り組みを進めることによって、自ずとカーボンニュートラルに向けた意識が周囲に伝播し、持続的な取り組みがまちの発展とともに、誰もが安心して暮らせるまちの実現へとつながっていきます。



事業目的

- ①カーボンニュートラル実現に向けて、能動的に取り組む機運を高めること。
- ②取り組みの意識がまち全体へと広がるきっかけをつくること。



事業概要

カーボンニュートラルの目標の年である、2050年にまさに当事者となってくる将来を担う世代に焦点をあて、教育という観点に着目し、学校の授業などで用いることができる映像やカードゲームを制作し、モデル校として広島市立牛田新町小学校にて出前授業を実施しました。制作にあたり、行政、企業、学生、学識経験者などを巻き込み、協同して制作しました。事業実施後はモデル校での実施報告書をまとめ、普及活動に努めました。普及活動には、補助金や協賛金などを活用してもらい、広島市内の全小学校や関係各所へ幅広く教材を寄贈しました。



運動効果

事業実施後、多くの問い合わせ依頼から地域の他の小学校での授業実施につながりました。また、今回協賛、協力いただいた各企業からもカーボンクエスト等を活用してもらい、地域の小学校や、小学校のみならず、中学、高校、大学での実施をしていただくことができました。教育委員会からも、地域の教員に向けてのカーボンクエスト体験会なども開かれています。その他に、脱温暖化センターひろしまにカーボンクエストを寄贈し、貸出対応を行ってもらえる体制を整えたことで、事業実施後から現在まで、各種企業、他団体、行政などからも多く貸出依頼を受けている現状があり、この事業が広い地域に大きな影響を与えることができたかと確信しております。

一般社団法人広島青年会議所

住所 広島県広島市中区基町5-44 広島商工会議所802

第42回横浜開港祭

一般社団法人横浜青年会議所

～事業に懸ける想い～

第42回横浜開港祭は、6月2日、3日に開催することを目指し、予定者の段階約9ヶ月間の時間を掛け、様々な企業や行政、関係諸団体との打ち合わせを行います。また、コロナ禍前の開催形式となるため、来場者70万人以上がみなとみらい地区に足を運ぶことになりますので、安心、安全な開催を行うために、各警察署や管轄の消防署に警備計画書や運営マニュアルを作成、提出し事故がない開催を計画致します。また、開催内容や、協賛金集めの計画が決まると同時に、市民に参加をしていただくための広報の計画も行います。広報には横浜開港祭親善大使と共に、横浜市内の商業施設やラジオ出演、ビーチクリーン活動などに参加することや、各種SNSにて活動の内容や、各種メディアに取り上げていただく記者会見を予定して広報活動を行います。横浜開港祭は、横浜青年会議所最大規模、最大事業であり、全メンバーに協力していただくため連絡調整会議を行い、横浜青年会議所全体で取り組んだ事業です。



第42回横浜開港祭

事業背景

横浜開港祭は1981年第1回横浜国際デー「プレ横浜どんたく」として始まり、綿々と受け継がれ現在では「横浜開港祭」と名称を改め開催しております。横浜青年会議所において事業規模、予算ともに最大の事業であります。これまで先輩諸兄姉が規制緩和に挑戦し、市民の笑顔や賑わいの創出を続けてきたからこそ、多くの方々に共感をいただき、今もなお事業が続いております。今後も多くのパートナーや市民の皆様と共に、横浜開港祭を創り上げていく必要があります。



ステージコンテンツ

事業目的

第42回横浜開港祭への参画を通じて、横浜青年会議所が行政、企業、市民と連携して事業を構築することの重要性を認識していただくことを目的としています。本年度開催の横浜開港祭は環境に配慮した形で開催することにより、行政、企業、市民から開催を求めているものになるため、海洋プラスチックごみに対する取り組みを実施し、環境に優しい市民祭を世界へ伝播させ持続可能な横浜開港祭を実施すること。横浜開港祭が開催されることによりまちもひと好循環が生まれることを目的と致します。



キッチンカー

事業概要

第42回横浜開港祭はメインテーマ「Thanks to the Port 開港を祝い、港に感謝しよう」をコンセプトに横浜の開港をお祝いするために実施されている事業です。サブテーマ「〜つないでいこう きれいな海を 世界へ 未来へ〜」海の環境問題を解決するコンテンツを取り入れた開催です。海の環境問題は世界規模であり、どんな問題が起きているか調査研究し、ペットボトルやビニール袋といった海洋プラスチックゴミなどの問題につながりました。市民祭を通じて市民の皆さんに身近で起きている問題であることを認知させることで、市民一人ひとりが環境問題に対して取り組みをしていただくことが重要であります。また、環境問題ではない様々なコンテンツを開催することにより横浜のまちに賑わいを創出しての開始になります。



一般市民来場者

運動効果

ビーチクリーン活動にて集めた海洋プラスチックごみは、なにもしなければただのごみになりません。しかし、脱炭素社会を目指す横浜市では、海洋ごみを再使用して、循環経済の取り組みをする必要があります。ネイルアートの体験や、海洋ごみアートを展示することで市民にも身近にある問題に気付いていただけるものとなりました。横浜開港祭を通じて海の環境問題が今起きている様々な自然災害につながっていることを知るきっかけをつくることができました。市民一人ひとりが環境問題に関心を抱き、様々な取り組みをすることにより、企業だけでは解決することができない問題を社会全体で解決が可能になります。今回は様々なメディアにも取り上げていただくことにより、横浜青年会議所の取り組みを広く周知することにもつながりました。

事業褒賞部門 最優秀地球環境プロジェクト賞

55周年記念事業

～まちだフードロスゼロ運動～

一般社団法人町田青年会議所

～事業に懸ける想い～

本事業を実施する背景として、2021年に町田市にて「持続可能なまち」を目指す市民参加型政策「まちだ未来づくりビジョン2040」が議決され、同年11月、町田市と町田青年会議所間でSDGsを推進すべく「SDGsの協働推進に関する協定書」を締結、持続可能な循環型社会へ向けて2022年1月より町田市バイオエネルギーセンターが稼働していますが、燃やせるごみの中に含まれる生ごみの量がバイオガス化施設の処理量を超えている状況であり、次の世代に街をより良く残していくために、町田の地域資源を活かし自立・分散型の社会を形成する必要があると考え、本事業の実施に至りました。世界ではまだ食べられる食料が、毎年約13億トン廃棄されており、その内日本では約612万トンが廃棄されており、国民1人に換算すると、毎日茶碗1杯分の食料を捨てていることとなります。ちなみに、日本が1年間の食品ロスは約612万トン、東京ドーム約5杯分です。このまま食品ロスを放置すると、大量の食べ物が無駄になるだけでなく、環境悪化や将来的な人口増加による食料危機にも適切に対応できなくなるからです。食品ロスの削減は、先進国にとっても途上国にとっても、避けて通れない喫緊の課題となっています。まちだフードロスゼロ運動を展開し本課題の解決に向け企画を立案しました。



事業背景

本事業を実施する背景として、2021年に町田市にて「持続可能なまち」を目指す市民参加型政策「まちだ未来づくりビジョン2040」が議決され、同年11月、町田市と町田青年会議所間でSDGsを推進すべく「SDGsの協働推進に関する協定書」を締結、持続可能な循環型社会へ向けて2022年1月より町田市バイオエネルギーセンターが稼働していますが、燃やせるごみの中に含まれる生ごみの量がバイオガス化施設の処理量を超えている状況であり、次の世代に街をより良く残していくために、町田の地域資源を活かし自立・分散型の社会を形成する必要があると考え、本事業の実施に至りました。世界ではまだ食べられる食料が、毎年約13億トン廃棄されており、その内日本では約612万トンが廃棄されており、国民1人に換算すると、毎日茶碗1杯分の食料を捨てていることとなります。ちなみに、日本が1年間の食品ロスは約612万トン、東京ドーム約5杯分です。このまま食品ロスを放置すると、大量の食べ物が無駄になるだけでなく、環境悪化や将来的な人口増加による食料危機にも適切に対応できなくなるからです。食品ロスの削減は、先進国にとっても途上国にとっても、避けて通れない喫緊の課題となっています。



事業目的

町田市民、町田市内飲食店業者が食品ロスやゴミの減量を自分事として捉え、削減に向けた行動を起こす一助とする。



事業概要

本事業では、「まちだフードロスゼロ運動」として、以下の運動を展開して参ります。
【まちだフードロスゼロ運動・POINT①】
【まちだフードロスゼロ運動への参加店の募集】を行い、参加店舗にポスター・チラシを掲示して頂きます。
【まちだフードロスゼロ運動・POINT②】
10月16日～11月2日迄の期間に、「まちだフードロスゼロ」のハッシュタグをつけたSNSでの情報の拡散を促します。
【まちだフードロスゼロ運動・POINT③】
YouTubeにてフードロスに関する動画を公開し、SNSにて広く拡散し、食品ロスを自分事として捉えていただく様に促します。今回は町田市フードロスゼロ運動を促進するため、1つの動画を4つ紹介させていただきます。
●動画①:衆議院議員 内閣府特命担当大臣 小倉将信様と町田青年会議所メンバーの対談動画
日本のフードロスの現状、課題、原因について対談形式でお話を伺いました。また、私たち消費者はどのような行動をすれば、フードロス削減できるのかについても話合いを行いました。衆議院議員 内閣府特命担当大臣 小倉将信様と町田青年会議所メンバーの対談動画 - YouTube
●動画②:衆議院議員 小泉進次郎様より応援のメッセージ動画
小泉進次郎様より応援のメッセージを頂きました。『motteco』は小泉進次郎様が環境大臣の時に公募をされました。当時の状況や、フードロス削減への取り組みに対して熱い応援メッセージを頂いております。衆議院議員 小泉進次郎様より応援のメッセージ - YouTube
●動画③:町田市長 石坂文一様と町田青年会議所メンバーの対談動画
町田市にできたバイオエネルギーセンターの設置の経緯を踏まえつつ、町田市の現状と課題点を食品ロスの観点から、町田市長 石坂文一様にお話し頂きました。町田市長 石坂文一様と町田青年会議所メンバーの対談動画 - YouTube
【まちだフードロスゼロ運動・POINT④】
町田市及び町田市周辺の飲食店事業者に対して、町田青年会議所が作成するオリジナルドギーバックの配布を行います。
【まちだフードロスゼロ運動・POINT⑤】
中学校に対し、フードロス取り組みモデル校の構築を目指します。



運動効果

ドギーバックを配布するなどしていることから、ある一定数に対しては、食品ロスやゴミの減量を自分事として捉え、削減に向けた行動を起こす一助とすることができました。
◆食品ロスやゴミの減量を自分事として捉え削減に向けた行動を起こす一助とする。
食品ロス削減に向けては飲食店の方は共通に必要な課題として認識していらっしゃる。ただし、環境省が主体となっている「モッテコ」の取り組みに対してはアンケート結果からも84%の方が知らないということがわかりました。本事業を通じて、行政主体が取り組んでいることを知っていただけたこと、行政側からの周知は上手く行っていないことがわかりました。
「モッテコ」の取り組みを通じて、今回、ポスターを配布することで「食品ロス（フードロス）」問題を自分事として捉えようと思われたか、というアンケートには86.7%の方が肯定的な意見を下さっています。今回アンケートに回答いただいた飲食店を利用された市民の方も51%の店舗で、実際に持ち帰り容器を使用していたりしています。
このことから想定していた規模の人数には満たないものの、飲食店、市民の方、共に食品ロスを自分事として捉え削減に向け行動していただけたと考えます。また、下記のアンケート抜粋からも意識や行動の変革という点も見られました。
※飲食店アンケート抜粋
・飲食店には必要な取り組みだと思います。改めて考える時間ができました。必要な取り組みだと思います。飲食店が関わることなので少しも協力していきたい。生ゴミを減らす必要があった。生ゴミがかなり減ったのを実感した。一食でも多く減らそうと思いました。環境問題を身近に考えるきっかけになった。店舗でできることに取り組んでいきたい。ポスター掲載でもお客様からの問い合わせもあった。市民の関心を感じた。飲食店の意識を高めることが必要だから。食べ残すことで発生する生ゴミについて考えるようになった。とても良い取り組みで賛同します。1つの店舗ではできることが限られている多くの店舗に声をかけて欲しい。応援をしている。周りが勝手にやるから、自分はやらないでいいよ、と思っていたが、自分も取り組み始めなければならないと思った。

AWARDS JAPAN 2023

Junior Chamber International

事業褒賞部門

最優秀組織改革プロジェクト賞

会員資格制度による組織変革

公益社団法人相模原青年会議所

～事業に懸ける想い～

多くのLOMで在籍年数の短期化し、それに伴い、安定的な青年会議所の運営が難しくなっているという現状があります。一方、大学生をはじめとした学生の中には、地域活動などをおして自己成長をしたい、様々な人とつながり広い視点をもちたいと考えている人がいます。しかし、学生であるため、青年会議所活動にかかる時間的・経済的な負担が大きいという問題があります。青年会議所の抱える問題やニーズ、学生が抱える問題やニーズの調整をすることにより、幅広い世代の人が参加できるようになり、より活発で安定した青年会議所が形成されます。



事業背景

相模原JCは明るい豊かなまちづくりのために運動を継続していますが、近年は会員の活動年数の低下、魅力的な事業の持続的な構築に課題を抱えている現状があります。今後、よりインパクトを与える組織として認知されるためには青年経済人だけではなく未来ある学生をより巻き込み、その行動力や創造力を活かし、事業構築を共に行うことで地域に密着した魅力ある運動を展開していく必要があります。



事業目的

- ・学生と事業構築をすることで、新しい視点から、改めて地域のニーズ発掘をする。
- ・学生の独立支援やメンバーによる専門講座を開催し、若者の育成を新たな相模原JCの役割とする。

全国的に生産年齢人口の減少が課題される中、LOM運営にとっても対象者が減少することは影響を及ぼします。その様な社会情勢でも、持続的に安定した運営をしていくためには従来の対象者の考え方を払拭し、今後、青年経済人になり得る学生にも着目していく必要があります。また、学生を巻き込むことで地域に関心をもつ関係人口を増加させJC運動のインパクトを高めていく必要があります。加えて、学生に運動を通じて地元への愛着を伝え、地域活性化の一助を担うこともLOMが貢献すべき内容になります。



事業概要

大学生をはじめとした学生が青年会議所の活動に参画しやすいよう学生正会員を設けました。学生という特性を踏まえて、以下の点に配慮をしました。

【学生正会員の役割】
正会員と同様に例会出席義務があり、JCI及び日本JC主催の諸大会への参加も可能となりますが、出向については金銭、時間の負担が大きいことと学業という本業がある以上は禁止としました。

【学生正会員の会費内訳】
年会費4万2千円 / 負担金1万8千円 諸大会登録費

【年会費決定根拠】
大学生のサブスクリプションサービスに使用する月額平均額が1,000円程度のため。

【年齢制限について】
懇親会での飲酒や喫煙を考えると満20歳以下の学生正会員の入会はリスクが高いと考え、満20歳以上としました。25歳という制限については、大学院に進み、学びを求める学生も対象とするため設定しました。



運動効果

【独立支援による地域貢献】
学生で起業を目指す方に対し、青年経済人としての経験を提供することや、必要に応じて個別に助言等を行うことで相模原JCとして新たな側面での地域貢献をしました。

【勉強会及びセミナーの開催】
土業や専門知識をもつメンバーが、学生に対して、講座を定期開催しました。参加した学生は専門的な知識をもつメンバーと交流をすることにより、学生生活では体感できない

理念共感推進事業

一般社団法人神戸青年会議所

～事業に懸ける想い～

スタッフの会計幹事に大きい企業のトップを据え置きました。この方は、残念ながら2023年度に卒業しており2024年度のこの京都会議にはいないのであえて普段は恥ずかしくて言えない感謝の気持ちを伝えたいと思います。本当に1年間一緒に歩んでくれてよかったです。あなたがいなければ私はJCをやめていたかもしれません。それぐらい1年間私のサポートをしてくださいました。また委員会メンバーのサポートも影でしてくださってありがとうございます。今思うとあなたがいなければ本当に事業どころか委員会として成り立つことはなかったでしょう。それぐらい、周りの人を支えていただきました。本当にお疲れ様でした。



事業背景

現在、全国のJCでは退会者数・休会者の増加によって在籍年数の短期化が進んでいます。神戸JCにおいても2023年度には3年未満の会員が約70%になることから新入会員や仮入会員に対して理念を体現し、伝達するJAYCEESの育成が求められています。神戸のまちづくりを担う青年経済人一人ひとりが理念に忠実で、自律的な運動を展開できるように、JCの理念に対する共感を浸透させることができる全体での学習及び実践の機会が必要です。また、JCとは何かを他者へ説明でき、セレモニーの意味を理解しているメンバーが減少しています。そのため、各メンバーが理念を知っているだけでなく、これを理解し共感することで理念に忠実な運動を展開できる組織の基盤をつくる必要があります。理念共感を具体的な行動に移した事例に触れる機会を設け、理念の重要性を認識したメンバーを拡大することが求められています。



事業目的

アカデミー事業に参加した新入会・仮入会メンバーがJCの理念に対する認知と理解を深め共感することで、次世代のメンバーへ理念共感を浸透させることのできる人財を育成することを目的とします。また、理念に共感することで、JCにおいてどのような未来を描けるかをメンバーに感じてもらうことにより、全てのメンバーに対しJCの理念を改めて学びなおそうという動機付けを行い、メンバーが積極的に活動を展開していくための基盤をつくることを目的とします。



事業概要

- 2/17【2月例会】対象：全会員（STEP：認知）
JCの理念の必要性を確認し、理解を深めるための例会
- 3/11【第1回アカデミー事業】対象：新入会員（STEP：興味）
理念共感型の関係構築について、対話の重要性や心理的安全性の必要性について理解する事業
- 6/5【第2回アカデミー事業】対象：新入会員・仮入会員（STEP：共感）
理念共感の思考について、JCの理念と自己理念をリンクさせる事業を実施しました。
- 7/27【第3回アカデミー事業】対象：新入会員・仮入会員（STEP：行動）
理念共感型の行動について、JCでの自らの体験や学びを新入会員が仮入会員へ伝える事業
- 2023/10/23【理念共感研修事業】対象：全会員（STEP：習慣化）
自走組織へ変革するため、理念共感の習慣化を目的としてJCI公式プログラムの窓口、申請方法を認知し、委員会単位でのプログラム受講を推奨する事業



運動効果

「理念共感推進事業」は、JCメンバー内の理念に対する理解と共感を深めることを目的としていましたが、副次的な効果として地域社会にも大きな影響をもたらすと考えております。全体事業終了後のアンケート調査では、参加者の65%が事業を通じて、JCの学びや経験を他者に話す機会をもったと回答しています。そのうち59%のメンバーがJCメンバー以外の、家族・友人・会社関係者へ自己の学びや経験を話す機会を設けたという調査結果となりました。対話の重要性、JCの理念の理解、自己理念と組織理念の統合を学ぶことで、アウトプットの機会を自主的にもったということが伺えます。これから、新入会員や仮入会員が理念を理解したことで具体的な行動に移り、地域の若手リーダーとしての役割を担っていくと考えられます。また、彼らが地域の様々な課題に取り組む中で、新たな価値や解決策を提案し、地域社会の発展に寄与していくことが予想されます。

事業褒賞部門 最優秀組織改革プロジェクト賞

ノーマライゼーション

～一人ひとりの個性が調和する未来を描こう～

一般社団法人山口青年会議所

～事業に懸ける想い～

障がい者雇用を推進する内容のテーマを設けましたが、導入からまとめまで広すぎる内容となったことで落とし所の設定に苦労しました。障がい者雇用を行っている企業へのヒアリング、障がい者の方を日々サポートしている団体へのヒアリングを含め、実際に障がいをもつ方へもヒアリング実施したことで多方面からのアプローチとして内容を充実させることができた。



事業背景

様々なメディアや媒体で、障がいをもった子供たちが、がむしゃらに生きている姿を目にするたび、いつも私は心を打たれた。この子供たちは将来どんな人生を歩むのだろうか、社会に出て、どんな職に就き生計を立てていくのだろうかと思い、山口市の障害者雇用について調べてみた。
山口市の障害者雇用について山口市は平成29年7月7日に厚生労働省山口労働局と雇用対策協定を締結している。障がい者を雇用する取り組みとして、山口市の障がい者の実雇用率は3.52%（令和3年6月1日現在）で、法定雇用率2.3%を上回っているが、一方で、法定雇用率達成企業の割合は53.3%と県全体の同割合56.3%と比べて低い水準にある。
障がい者一人ひとりの能力を活かし、誰もが活躍できる社会作りが必要である。



事業目的

法定雇用率が達成されていない企業が約半数ある中で、障害者雇用が浸透していない原因は、知識不足や社内風土等あげられるが、ヒアリングの結果、障がい者について理解不足が多く挙げられた。
青年会議所会員の構成は、経営者から個人事業主、サラリーマン等様々な雇用形態の人たちがいるが、障がい者雇用については、仕事をしている以上、理解をしていなければならない。
障がい者の理解を深め、障がい者と共に働ける環境作りを目的とする。



事業概要

- 例会アワー
ノーマライゼーション～一人ひとりの個性が調和する未来を描こう～
- ①アワー構成導入・・・2分
 - ②山口市の障がい者雇用について・・・10分
 - ③障がいの種類・・・5分
 - ④ワーク（視覚障がい者、知的障がい者への伝達体験／動画視聴）・・・20分
 - ⑤障がい者の方の本音・・・5分
 - ⑥活躍事例・・・10分
 - ⑦まとめ・・・3分
 - ⑧アンケート・・・5分



運動効果

例会を構築するにあたりご協力いただいた、社会福祉法人ほおの木会の担当者様より、例会で障がい者雇用というテーマを取り上げたことで、「障がい者雇用の実情を話してくれたり、私たちのような団体があることをしてもらえるきっかけを作ってくれたこと」に対し、感謝の意を頂いた。また、ほおの木会様からも、山口JCと障がい者雇用のセミナーができる機会があれば、一緒に構築したいという声もいただき、社会において山口青年会議所の存在意義を改めてかんがえることができた。

一般社団法人山口青年会議所

住所 山口県山口市湯田温泉4丁目1番22号

AWARDS JAPAN 2023

Junior Chamber International

拡大褒賞部門

優秀拡大LOM賞

20名以下の部

拡大褒賞部門 優秀拡大LOM賞 20名以下の部

2023年度、会の拡大に成功したLOMを対象に褒賞いたします。

一般社団法人 柳井青年会議所

～会員拡大における取り組み、工夫、想い～

OBとの連携を強めたことにより、会員候補の情報を現役だけでなくOBからも情報を得ることで広いアンテナを張ることができ、OBからの根回しもあったことが大きいと感じています。年初4名スタートでしたので、5倍拡という大きな目標を立てました。5倍拡までは大きな壁でしたが、この度のアワードにノミネートいただいた報告を受けた時、一番の達成感がありました。

拡大成果は当日発表

一般社団法人 鎌ヶ谷青年会議所

～会員拡大における取り組み、工夫、想い～

参加しやすい組織にするため、運営方法等をすべてリセットして新しい団体として再スタートさせました。親睦会を開催した際に店に入りきらないくらいの人数になったときに達成感を感じました。過去は振り返らず前だけ見て50周年の時に50人で迎えられるように拡大頑張ります。

拡大成果は当日発表

一般社団法人 狭山青年会議所

～会員拡大における取り組み、工夫、想い～

人数が少なく拡大組織を作っても機能しないことが多かったので、全面的にOBに協力してもらうことにしました。以前は交流はあったけれど、拡大情報の吸い上げなどはほとんど出来ていなかった。今年はOBにもっと踏み込んで支援してほしい旨を伝え、OB主催での事業を開催するなどOB側でもオブザーバー集めに奔走してもらった。

拡大成果は当日発表

AWARDS JAPAN 2023

Junior Chamber International

拡大褒賞部門

優秀拡大LOM賞

30名以下の部

拡大褒賞部門 優秀拡大LOM賞 30名以下の部

2023年度、会の拡大に成功したLOMを対象に褒賞いたします。

一般社団法人 伊那青年会議所

～会員拡大における取り組み、工夫、想い～

先輩方に協力を仰ぎ、候補者情報を提供していただきました。先輩方も入られている伊那JC拡大プロジェクトというFacebookのグループを通じて候補者情報や勧誘の進捗状況などを共有しました。また、先輩方から情報をいただければ、普段からコミュニケーションを取り合うよう心掛けました。

拡大成果は当日発表

福生青年会議所

～会員拡大における取り組み、工夫、想い～

工夫した点として、まずはLOMの現状の棚卸をしました。人数も限られている状況のため、自分たちがコミットできている部分とそうでない部分の検討を行いました。その中で明らかになったのは福生JCの地域の関係諸団である商工会やライオンズクラブ、ロータリークラブなどの関係性が強くなかったことです。活動エリアである2市1町への働きかけも偏っていることが明らかになりました。また2022年の国際アカデミーで学んだことですが、我々JCのメンバーはみんなとても忙しい中で運動してる。その限られた時間という資産をどこに配分するかをしっかりと考える。この言葉をもとに、我々福生JCはコミットできていなかった地域関係諸団体に働きかけを強めました。その結果が今回の結果に結びついている要因の一つだと思っております。

拡大成果は当日発表

伊勢原青年会議所

～会員拡大における取り組み、工夫、想い～

服装についてビジネスを多用しないように心がけました。また、親交を深められるような設えを多く企画しました。拡大において苦労した点は無く、ブロック協議会において拡大褒章を受賞できた際の達成感は一入でした。また、多くのオブザーバーが例会だけでなく、その後の懇親会などにも参加してくれて、各々JCで活動していく上での思いを語ってくれたことが印象的です。

拡大成果は当日発表

AWARDS JAPAN 2023

Junior Chamber International

拡大褒賞部門

優秀拡大LOM賞

50名以下の部

拡大褒賞部門 優秀拡大LOM賞 50名以下の部

2023年度、会の拡大に成功したLOMを対象に褒賞いたします。

公益社団法人 泉佐野青年会議所

～会員拡大における取り組み、工夫、想い～

「拡大リストの作成」「候補者ファーストの精神」「拡大マウントの撤廃」の3つです。
ひとつ目の「拡大リストの作成」では、約150名の拡大リストの中には職業や趣味、生まれ年等の情報も管理しており、マッチングするLOMメンバーとの面会が有効に働きました。候補者の確度によって優先順位を定め計画性をもって行動しました。次に「候補者ファーストの精神」ですが、拡大したいこちらの都合ではなく、相手の環境やJCに対する懸念点に向き合い、候補者の事情に寄り添い拡大しました。退会者防止や実働メンバーを増やす観点からも勢いで入れる方法は避けました。そして「拡大マウントの撤廃」は、組織の発展には持続可能な拡大が必要と考え取り組みました。当年度ではなくても次年度以降につながれば良いという姿勢を貫きました。また、その姿勢を貫くことでメンバーに対するノルマのような圧や拡大マウントを排除したことによってメンバー全員が拡大に前向きに取り組めたと感じています。

拡大成果は当日発表

一般社団法人 茨木青年会議所

～会員拡大における取り組み、工夫、想い～

メンバーとの会話を大切に、1年間通じて拡大に協力してもらえるよう信頼関係を築くことを継続しました。金銭的に余裕のない候補者に対してどのようなアプローチをするべきなのか悩み苦労しましたが、目標であった100名に届かないのではと諦めかけた総会前日の夜に、4名の入会を獲得し、100名LOM復帰をシニアクラブメンバーの前で発表できた時には大変な達成感を得られました。

拡大成果は当日発表

公益社団法人 松戸青年会議所

～会員拡大における取り組み、工夫、想い～

拡大担当理事を設置して、全委員会に拡大幹事という役職も設けて縦と横の連携を図るようにしました。毎月の理事会議にて1名以上は必ず入会認証議案を上程することを目標にしました。拡大担当理事を筆頭に拡大についてメンバー一人ひとりが協力的になっていき、そのような行動変容がその他の事業に対してもやる気にさせて、LOM全体としても成長できたことにつながったことが印象的です。

拡大成果は当日発表

AWARDS JAPAN 2023

Junior Chamber International

拡大褒賞部門

優秀拡大LOM賞

75名以下の部

拡大褒賞部門 優秀拡大LOM賞 75名以下の部

2023年度、会の拡大に成功したLOMを対象に褒賞いたします。

一般社団法人 尼崎青年会議所

～会員拡大における取り組み、工夫、想い～

各対象者の目的や環境などに合った勧め方（話し方）を工夫しました。現役メンバーに拡大への関心をもたせることに苦労しましたが、2023年度新入会員メンバー全員で企画、運営した【理事長杯】の成功を見届けた際の達成感や、理事長の拡大に取り組む姿勢は忘れられません。

拡大成果は当日発表

公益社団法人 新居浜青年会議所

～会員拡大における取り組み、工夫、想い～

新入会員に青年会議所の良さや意義よりもまずは我々の人として魅力を伝え、まず入会してもらおうという工夫をしました。より直接的に仕事につながるメリットを求める傾向が強くなったことに苦労しましたが、明確な目標（過去最高新入会員数）を立て、ロム全体で達成し続けていけたことには達成感を感じています。

拡大成果は当日発表

一般社団法人 那覇青年会議所

～会員拡大における取り組み、工夫、想い～

問合せがあった際には、間髪入れず、何も考えず、すぐ候補者に連絡する。その後面談日程調整を行った。面談の際には候補者の属性を考慮して当方側の人選を行った。その結果、拡大人数が過去10年で同率1位となり、アワードにノミネートされることができ、嬉しく思います。次年度の拡大につなげるため、異業種交流会事業を実施した、その時のみんなの笑顔はとても良い思い出です。

拡大成果は当日発表

AWARDS JAPAN 2023

Junior Chamber International

拡大褒賞部門

優秀拡大LOM賞

110名以下の部

拡大褒賞部門 最優秀拡大LOM賞 110名以下の部

2023年度、会の拡大に成功したLOMを対象に褒賞いたします。

一般社団法人 長崎青年会議所

～会員拡大における取り組み、工夫、想い～

工夫した点として、拡大委員会を設けたことはもちろんではありますが、理事長が前のめりになって拡大活動を主体的に行ったことではないかと思えます。拡大委員会をいかに設置しても、理事長が旗振り役を担ったとしても、まずはマンパワーに尽きる。理事長の背中を見たメンバーが拡大活動に丸となって取り組んだ結果ではないかと思えます。

当LOMでは新入会委員が全員で問題提起をし、事業に取り組む「フォローアップセミナー」を実施しています。紆余曲折もあり、苦労もありましたが、新入会員が丸となって事業に取り組んだことで、結びつきがより一層強固なものになったと考えております。

拡大成果は当日発表

一般社団法人 花巻青年会議所

～会員拡大における取り組み、工夫、想い～

広報拡大委員会としてPRの原点に立ち返り、各事業や組織、会員の魅力を発信し続け、理念共感型の拡大運動を行いました。前半にビジョン、ウェルビーイング、理念共感、リーダーシップをテーマとした事業を展開したことで2023年度の「組織のあるべき姿」がより明確になり、6月以降の事業効果が高まりました。そして魅力的な事業を広報で発信することで花巻青年会議所がまちにとってより価値の団体となり、拡大候補者へ青年会議所の理念が伝わりやすい状態となり、拡大運動が行いやすい環境づくりを組織一丸となり行いました。

2023年度は多様性あふれる時代に即した組織へと進化するために、組織グループとして組織改革に取り組みました。会員拡大については「集める組織から集まる組織」を目標として、魅力的な広報活動を行い拡大候補者含むステークホルダーとの関係性を築き上げながら拡大運動を展開しました。その中で花巻青年会議所の広報を見て、組織の理念に共感いただき入会を志願した候補者があり、集める組織から集まる組織へと第1歩を踏み出したことに達成感を感じました。

拡大成果は当日発表

一般社団法人 泉青年会議所

～会員拡大における取り組み、工夫、想い～

メンバーの拡大意識を醸成するために拡大会議を毎月開催しておりました。また、会員拡大委員会以外の各委員会や委員会の懇親会等に出席してメンバーと積極的にコミュニケーションを図り候補者を紹介しやすい環境構築に努めておりました。

11年連続33%会員拡大達成できました、2024年度も引き続き12年連続33%会員拡大達成に向け拡大活動して参ります。

拡大成果は当日発表

AWARDS JAPAN 2023

Junior Chamber International

拡大褒賞部門

優秀拡大LOM賞

111名以上の部

拡大褒賞部門 最優秀拡大LOM賞 111名以上の部

2023年度、会の拡大に成功したLOMを対象に褒賞いたします。

一般社団法人 浜松青年会議所

～会員拡大における取り組み、工夫、想い～

100人という圧倒的な目標を達成するために、「会員拡大活動は、各委員会の職務であり、拡大委員会は、そのための手法の提供とサポートを行う役割」と位置付けたこと。拡大委員会ばかりが疲弊する従来の在り方を見直し、力点を各委員会におくことで、拡大へのコミット意識を上げた。静岡ブロック過去最高値を目指し、締め切り前日に最後の1名の入会が決まった時、諦めなければ想いは伝わると感じた。

拡大成果は当日発表

公益社団法人 金沢青年会議所

～会員拡大における取り組み、工夫、想い～

入会4年未満の会員に絞って拡大戦略会議を月に2回必ず行い、「なぜ会員拡大が必要なのか」、「候補者とは誰を指すのか」、「実践の場(会議での候補者への電話アポ取り)」という基礎的なところから実践的な部分まで拡大委員会で伴走し、拡大の気概をLOM内に浸透させるように工夫しました。また、会員拡大動画を作成し公式SNSとリンクさせ、視聴者を公式WEBサイトの拡大ページに誘導することで、マンパワーを使用しない拡大にも挑戦しました。足を使って泥臭く、メンバーにお願いしてまわった先で、同じ拡大のラインの上長や執行部からも依頼があったと聞いて、心は一つだと実感した瞬間が印象的でした。

拡大成果は当日発表

公益社団法人 相模原青年会議所

～会員拡大における取り組み、工夫、想い～

ゲストとの対話や、メンバーや先輩方にゲストを紹介してもらうなど、私たちの基本的な行動に加えて、今年度はゲストリストの作成と管理に重点を置きました。ゲストの背景や参加意向など、重要な情報を整理し、交流会やゲスト報告で共有し、ゲストとメンバーの相性やゲストの課題解決に資するマッチングを行いました。模索の日々でしたが、私たちは拡大委員会として一年間、拡大のマネジメントに取り組んできました。毎週月曜日の朝には拡大会議を開き、状況を把握し、前後1週間の動きを報告し、情報の滞りを避けるために努めました。通常は年度末の追い込みで入会者が増える傾向にありますが、今年度は8月末までに目標の人数を達成し、拡大中期ビジョンに基づき200名を定員とし入会を締め切りました。特に今年度の理事長の拡大に向けた強い指導が、メンバーの意識統一につながりました。8月末での目標達成はできませんでしたが、9月15日までに達成し、一定のブランディングに貢献できたと考えています。多くのメンバーからのヒアリング、ゲストやメンバーの管理、理事長のリーダーシップ、アカデミー広報委員会と拡大組織力向上委員会による拡大例会の構築、日々の内部向け情報発信、そして何度も開催した拡大交流会や異業種交流会、様々なテーマでの交流会を通じて、大学生から教員まで多様なゲストを集め、53名の拡大目標を達成しました。これらの取り組みを通じて、次年度の拡大委員会と連携し、来年度のスタートダッシュに向けた体制づくりを進めています。

拡大成果は当日発表

AWARDS JAPAN 2023

Junior Chamber International

最優秀

拡大LOM賞グランプリ

最優秀

拡大LOM賞グランプリ

2024.01.20

2024年度 京都会議

Stand up, Leaders!

「AWARDS JAPAN 2023」

当日発表!!

AWARDS JAPAN 2023

Junior Chamber International

優秀賞

準グランプリ

優秀賞

準グランプリ

2024.01.20

2024年度 京都会議

Stand up, Leaders!

「AWARDS JAPAN 2023」

当日発表!!

AWARDS JAPAN 2023

Junior Chamber International

最優秀賞グランプリ

最優秀賞

グランプリ

2024.01.20

2024年度 京都会議

Stand up, Leaders!

「AWARDS JAPAN 2023」

当日発表!!

アンケートにご協力ください



**Please cooperate
with the questionnaire**